

令和 7 年度
授業概要及び年間授業計画
(シラバス)

静岡県立熱海高等学校

令和7年度 シラバス 目次

項目			
教科	科目	通番	学年
国語	現代の国語	1-1	1 年
	現代の国語	1-2	2 年
	言語文化	2	1 年
	論理国語	3	3 年
	文学国語	4-1	2 年
	文学国語	4-2	3 年
	国語表現	5	3 年
地歴公民	地理総合	6	1 年
	地理探究	7	2 年
	歴史総合	8	1 年
	日本史探究	9	3 年
	世界史探究	10	3 年
公民	公共	11	2 年
	政治・経済	12	3 年
数学	数学Ⅰ	13	1 年
	数学Ⅱ	14-2	3 年
	数学Ⅲ	15-2	3 年
	数学A	16	2 年
	数学B	17	3 年
	数学C	18	3 年
	数学Ⅰ 演習	19	3 年
理科	科学と人間生活	20-1	1 年
	科学と人間生活	20-2	2 年
	化学基礎	23	1 年
	生物基礎	24	2 年
	化学	27	3 年
	生物	28	3 年
保健体育	体育	29-1	1 年
	体育	29-2	2 年
	体育	29-3	3 年
	保健	30-1	1 年
	保健	30-2	2 年

項目			
教科	科目	通番	学年
芸術	音楽Ⅰ	31-1	1 年
	書道Ⅰ	31-2	1 年
英語	英語コミュニケーションⅠ	32	1 年
	英語コミュニケーションⅡ	33-1	2 年
	英語コミュニケーションⅡ	33-2	3 年
	論理・表現Ⅰ	34	2 年
	論理・表現Ⅱ	35	3 年
	ビジネス英会話	36	3 年
	スピーチ	37	3 年
家庭	家庭総合	38-1	1 年
	家庭総合	38-2	2 年
情報	情報Ⅰ	39	2 年
探究	キャリアアップ	40	1 年
商業	ビジネス基礎	41	2 年
	課題研究	42	3 年
	マーケティング	43	3 年
	観光ビジネス	44-1	2 年
	観光ビジネス	44-2	3 年
	簿記	46	2 年
	ソフトウェア活用	47	3 年
福祉	社会福祉基礎	48	2 年
	介護福祉基礎	49	2 年
	コミュニケーション技術	50	3 年
	生活支援技術	51-1	2 年
	生活支援技術	51-2	3 年
	介護総合演習	52	3 年
	こころとからだの理解	53	3 年
探究	キャリアマネジメント	54	3 年

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
1-1	国語	現代の国語	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
高等学校 新編現代の国語(第一学習社)				漢字検定対応 級別漢字学習 7級～2級(東京法令出版) 新版六訂 カラー版新国語便覧(第一学習社)			
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。						
②思考・判断・表現	読むこと、書くこと、話すこと・聞くことの各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。						
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習活動(指導内容)	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し、相手により伝わりやすい表現方法を選択する。	・自己紹介 ・話し合いの仕方や結論の出し方、相手の意見の聞き方を学ぶ。	「話し方の工夫」 SST	○	話	○	・ワークシートの記述の確認 ・自己評価 ・相互評価
	内容や構成、論理の展開を的確に捉え要旨を把握する。	実体験をふまえて提示された文章の構成を整理し、筆者の考えを理解する。	「『未知』はいくらでもある」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
5	文章に含まれる情報を相互に関係づけながら、内容を理解する。	情報を整理し、例示によって補完される筆者の主張をとらえる。	「言葉の海のオノマトペ」 「言語としてのピクトグラム」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
6 7	相手や話題の人物との関係、自分の立場に応じて言葉を使い分け、相手の話を意識的に聴く。	・敬語表現や相手や場に応じた表現を学ぶ。 ・職業インタビューを通して、自分の興味のある分野で働いている社会人とお話を伺う。	「待遇表現」 「職業インタビュー」 (学年部と連携した事前指導)	○	話	○	・WSの記述の確認 ・自己評価
9	調べたことをまとめ、相手に伝わる言葉で書く。	基本的な表記のルールや接続表現を身につけ、インタビュー内容のまとめに生かす。	「書き方の基礎レッスン」 「職業紹介(インタビュー作文)」	○	書	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
	筆者の考えを的確に読み取り、自らの考えと比較する。	・例示の意図を考え、筆者の仕事観を的確にとらえる。 ・自らの仕事観と比較する。	「人はなぜ仕事をするのか」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
10	目的に沿って的確に案内する表現方法を理解し、相手に配慮しながら通知する。	・基本情報のまとめ方を学ぶ。 ・相手・場面を想像した表現を学ぶ。 ・文化祭に向けての案内文を作成する。	「相手に伝わる案内をする」 文化祭に向けての案内作成	○	書	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
11	具体と抽象の違いと役割を理解する。	・評論文の中から具体的に述べている部分(例示)と抽象(まとめ等)の部分を抜き出す。 ・具体的に述べることと抽象的に述べることのメリットを知る。	「日本語は世界をこのように伝える」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
	情報を取捨選択しわかりやすさを考えた構成・配置にする。	・身近な製品の取扱説明書の作成を通して、情報の精選と伝え方を学ぶ。	「身近な製品の取扱説明書を作成する」	○	書	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
1 2	文章の内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。	ロボットが人間と関わる方法について対比的な読解を行い、ロボットの開発意図を理解する。	「『弱いロボット』の誕生」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
職業インタビューの事前準備・事後学習において、相手を意識した言葉遣いや、場面に応じた話し方を適切に使い分ける。			「言語としてのピクトグラム」の学習過程において、日本で用いられるピクトグラムに対して、ALTの意見を聞く機会を設け、文化の違いによる誤解や誤用の可能性について学ぶ。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
知識・技能については単元テストを中心に評価する。思考・判断・表現については、成果物と定期テストの結果から評価する。主体的に学ぶ態度については、ワークシートの記述を点検し、単元を通して粘り強く自己の学習を調整しているかどうか評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
1-2	国語	現代の国語	3	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代の国語(大修館)				漢字検定対応 級別漢字学習 7級～2級(東京法令出版) 新版六訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) プレゼミ総合国語 国語常識・表現力養成 (浜島書店)			
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。						
②思考・判断・表現	読むこと、書くこと、話すこと・聞くことの各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。						
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習活動(指導内容)	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	学びに向かう基礎的な姿勢を作る。	・筆者の主張を把握する。 ・「わかる」ことの喜びを味わった経験を話し合う。	「白紙」	○	話	○	・WSの記述の確認 ・自己評価 ・相互評価
	具体と抽象の関係を理解し、対比的な文章を読む。	論理の展開を的確に捉え、文章の要点を把握する。	「水の東西」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・単元テスト
5	目的や場面に応じて伝え方を工夫する。	わかりやすく伝えるための工夫を考え、文章を書く。	「設計図を最初に渡せ！」 「わかりやすく書く」	○	書	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
6	複数の文章や資料を比較し、考えを深める。	複数の文章を比較し、共通点や相違点をまとめる。	「文章を比較して読む」 「空気を読む」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
7							
9	自分の考えを整理したり広げたりする。	ブレンストーミングの方法を身に付け、実践する。	「発想を広げる」	○	話	○	・WSの記述の確認 ・自己評価 ・相互評価
10	主張と根拠、推論のしかたに着目して論理を捉える。	演繹と帰納を理解し、文章の中からそれぞれが用いられている箇所を探す。	「動的平衡としての生物多様性」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
11	伝えたい内容に関して、相手が魅力を感じるように工夫する。	「HR紹介」や「熱海高校の魅力」などのテーマでスライドか紹介文を作成し、発表する。	「『伝える』の先にあるもの」 「魅力的な紹介文を書く」	○	書	○	・WSの記述の確認 ・自己評価 ・相互評価 ・成果物の評価
	他者の主張の妥当性や信頼性を吟味する。	文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性について考える。	「根拠を吟味して読む」 「言葉についての新しい認識」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
1	相手を意識した効果的な表現や手段を考える。	質問の目的を明確にして、相手への理解を深めるインタビューを行う。	「目的に沿った質問をする」 「先輩へのインタビュー」	○	話	○	・WSの記述の確認 ・自己評価 ・相互評価
2	統計資料を正確に読み取る。	本文中の統計資料が、筆者のどの主張の根拠となっているかを理解する。	「インターネット時代の音楽産業」	○	読	○	・WSの記述の確認 ・成果物の評価
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
「先輩へのインタビュー」で、どのような質問をすれば効果的か考えて実践し、その振り返りを通してよりの確な情報の集め方を身につける。			数学科・情報科でのグラフの学習に結びつけ、情報を正しく伝えるためにはどのようなグラフを用いるべきかを理解する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
知識・技能については単元テストを中心に評価する。思考・判断・表現については、成果物と定期テストの結果から評価する。主体的に学ぶ態度については、ワークシートの記述を点検し、単元を通して粘り強く自己の学習を調整しているかどうか評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
2	国語	言語文化	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
高等学校 新編言語文化(第一学習社)				漢字検定対応 級別漢字学習 7級～2級(東京法令出版) 新版六訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) ウォーミングアップ高校国語 国語小町 入門編(啓隆社)			
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。						
②思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習活動(指導内容)	使用教科書項目等	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫してた短歌を詠む。	・短歌の修辞法とその効果について理解する。 ・学んだ修辞法を使った短歌を創作する。	「大切な言葉」 佐佐木信綱短歌大会	○	書	○	授業プリントの記述 短歌の作品
4	主人公の心情の動きを読み取る。	文章の内容について叙述を基に的確に捉える。	「よろこびの歌」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
5	話の展開と内容を押さえ、古文の特有の仮名遣いと言葉に慣れる。	文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える。	「一休ばなし」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
6	百人一首の和歌が詠まれた背景をふまえ、内容の解釈を深める。	・百人一首の和歌が詠まれた背景について理解する。 ・背景をおさえた上で、現代の言葉に書き換える。	「古典の和歌を現代の言葉で書き換える」	○	読	○	授業プリントの記述
7	行動や心理をもとに内容を解釈する。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、内容の解釈を深める。	「羅生門」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
9	現代に通じる人間のありようを味わい、古文の世界への親しみを深める。	作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。	「児子のそら寝」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
10	初めての文化祭で体験したことの中から、最も表現したいことを明確にする。	・自分の体験の中で、表現したいものを挙げる。 ・どのような読み手に対してどのようなことを伝えたいのか明確にする。	・「祭りの笛」 ・「『祭り』をテーマに随筆を書く」 ・文化祭についての感想文を書く	○	書	○	授業プリントの記述 文化祭についての感想文
11	漢文を訓読するための基礎知識を習得する。	訓読のきまりについて理解する。	「訓読に親しむ(一)・(二)」	○	読	○	小テスト 授業プリントの記述
12	漢文の訓読に慣れ、言葉の由来を知る。	我が国の言語文化の特質を理解する。	「矛盾」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
12	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞する。	作品の内容をふまえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める	唐詩の世界「春暁」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
2	作品に含まれる寓意を理解する。	表現の仕方、表現の特色について評価する。	「よだかの星」	○	読	○	単元テスト 授業プリントの記述 振り返りシート
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
『羅生門』では、『今昔物語集』と比較することで、芥川龍之介がどのような意図を持って書き換えたのかを考え、作品のテーマや人物像についての解釈を深める。				『枕草子』『春はあけぼの』『はしたなきもの』では、平安時代の歴史や文化を歴史総合と連携して学ぶ。 ・「春暁」では、中国の地理や歴史的背景を地理総合と連携して学ぶ。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、単元テスト、課題、授業プリントの記述の確認により、知識・技能の習得状況や思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度について判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
3	国語	論理国語	4	文理(文系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編 論理国語(大修館)							
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。					
②思考・判断・表現		読むこと、書くこと、話すこと・聞くことの各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。					
③主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習活動(指導内容)	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取り、これからの学習で取り組みたいことをについて考える。	文章の展開のしかたについて理解を深める。内容や構成などを的確にとらえ、要旨を把握する。	知の登山、知の水路 「論理的な人」とはどういう人か	○	読	○	ワークシート 生徒の行動の観察 課題
5	具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえたり、文章の構成に注目しながら主張を読み取る。	具体と抽象の関係を理解する。具体と抽象の関係を適切に把握しながら、要旨をとらえている。	【ウォームアップ】具体と抽象の関係 ウサギの耳はなぜ長い？	○	読	○	ワークシート 課題・定期試験
6	主張と根拠の関係について考えを深める。	主張とその前提や反証など、情報と情報との関係について理解を深める。	【ウォームアップ】主張と根拠を考える 「考える草」であり続ける	○	読	○	ワークシート 小テスト
7	接続表現を適切に使ったり、根拠を明示したりしながら論理的に主張を書く。基本的な小論文の型を理解する。	根拠を明確にして主張を論理的に書く方法を理解する。文や文章の効果的な組み立て方について理解する。	根拠をふまえて主張を書こう 構成を考えて書こう	○	書	○	ワークシート 課題
9	対比の役割を意識して読み、論理展開をとらえる。文章構成や接続表現に注目して主張を読み取る。	対比を示す表現を理解した上で使う。対比関係に注目し、論理展開をとらえる助けとする。	【ウォームアップ】比べて説明する 対話の精神	○	読	○	ワークシート 課題・定期試験
10	情報を比較・整理する方法について考えを深め、異なる立場の文章を比べて読み、論理の展開をとらえる。	情報を階層化する方法を理解する。根拠を批判的に検討し、信頼性を吟味して内容を解釈する。	【ウォームアップ】情報を比較・整理する 紙の本はなくなるらない	○	読	○	ワークシート 定期試験
11	異なる立場の文章を比べて読み、自分の考えを持つ。具体例の役割に注意して主張を読み取る。	語彙を増やし、語感を磨く。主張を支える根拠を批判的に検討し、妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	情報化と紙の本のゆくえ 【フォーカス】比べて読もう	○	読	○	ワークシート 生徒の行動の観察
12	課題分から小論文で取り上げる論点を的確に見だし、課題分の趣旨を的確にとらえて、自分の主張を書く。	課題文から論点を的確に見いだす。課題文をふまえて、情報の妥当性を吟味しながら根拠をそろえる。	文章を読んで書こう—課題文型小論文	○	書	○	ワークシート 成果物
1	主張と根拠の関係を吟味する。論理の展開や比喩表現の意図をとらえる。	文章中から根拠となる表現を探して筆者の主張を把握する。難解な比喩表現の意味を、要旨の理解に役立てる。	ミロのヴィーナス	○	読	○	ワークシート 小テスト
2	筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。筆者の発想のしかたに注目して読む。	関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈をする。	「である」と「する」こと	○	読	○	ワークシート 定期試験
3	社会が抱える課題に対する理解を深め、さまざまな資料を参照しながら文章を読む。	主張を論理的に述べるための語句を身につける。主張と主張の根拠となる資料の関係を理解する。	人口減少社会の到来	○	読	○	ワークシート 定期試験 生徒の行動の観察
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
「対話の精神」の本文中に用いられている「譲歩逆説」の論理展開を応用し、短い小論文を書き、自己評価や自己添削を通して文章を作成する力を身につける。				「人口減少社会の到来」では、数学科と連携して統計資料の読解を行い、そこからわかることを読み取って発表する。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
知識・技能に関する部分は単元テストを中心に評価する。「書くこと」についての評価は、成果物の評価を行うとともに、単元テストでも応用問題として評価を実施する。ワークシートの記述の点検については、学習内容に興味を持ち、意欲的に取り組む態度が表れているかどうかを判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
4-1	国語	文学国語	2	文理(文系)	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編 文学国語(大修館)							
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。					
②思考・判断・表現		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習内容	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。	・入れ籠構造や過去と現在の対比など、情報を整理して物語の流れをつかむ。 ・本文を根拠に、書かれていない部分を解釈する。	「ナイン」	○	読	○	・ワークシートの記述の点検 ・単元テスト
5	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。	・古語の意味をつかみ、登場人物と物語の流れを整理し、セリフの意図を考える。 ・物語のおもしろさと教訓をとらえる。	『沙石集』 「児の飢食ひたること」	○	読	○	・WSの記述の点検 ・小テスト ・単元テスト
6							
7	詩の文体の特徴や修辞などの表現技法を理解し、読み手を引き付けるように使う。	・さまざまな時代の詩人の作品を読み、形式や修辞などの表現方法を学ぶ。 ・身に付けた表現方法を使って、読み手を引き付けるような詩を創作する。	「永訣の朝」 「コスモス」	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価 ・単元テスト
9	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。	・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。 ・登場人物の心情を整理し、人間の生き方について考える。	『史記』 「四面楚歌」	○	読	○	・WSの記述の点検 ・小テスト(漢文) ・単元テスト
10	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	・登場人物の心情や置かれた状況と、自らの生活体験を比較する。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。	『こころ』夏目漱石	○	読	○	・WSの記述の点検 ・単元テスト
11							
12	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。	・平安朝の恋愛や身分制度を理解し、物語の流れをつかむ。 ・歌を詠むに至るまでの男の心情を読み取る。	「月やあらぬ」(第四段) 「通ひ路の関守」(第五段) ※第五段は差し込み教材	○	読	○	・WSの記述の点検 ・小テスト ・単元テスト
1	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。	・語り手によって主人公はどのように描かれているか、本文を根拠に分析する。 ・場面ごとに訪れる少女の描き方や表現を分析し、結末を予感させる伏線について考える。	「鉄道員」	○	読	○	・WSの記述の点検 ・単元テスト
2	選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、文章全体を整え、読み手を引き付ける文章を作る。	・随筆の類聚的章段の学習を通して、テーマから連想される事柄を整理し表現する方法を学ぶ。 ・自らテーマを決め、書きたい事柄を整理し、読み手の関心を引くように表現を工夫して随筆を書く。	『枕草子』 「はしたなきもの」	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価 ・単元テスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・『枕草子』の類聚的章段を読み、自らのテーマに合った事柄を集めて表現を工夫して書く。			・『伊勢物語』において、平安朝の貴族社会の恋愛事情や身分制度について学習する(地歴公民)。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
知識・技能や「読むこと」に関する部分は単元テストを中心に評価する。「書くこと」についての評価は、成果物の評価を行うとともに、成果物完成に至るまでのワークシート(以下WS)の記述の点検により評価する。また、単元テストでも応用問題として評価を実施する場合もある。WSの記述の点検については、単元を通して粘り強く自己の学習を調整しているかどうか判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
国語便覧等、授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
4-2	国語	文学国語	2	文理(文系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編 文学国語(大修館)							
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。					
②思考・判断・表現		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習内容	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。	・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。	『待合室』内海隆一郎	○	読	○	・ワークシートの記述の点検 ・単元テスト
6 7	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。	・平安朝の恋愛や身分制度を理解し、物語の流れをつかむ。 ・登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、登場人物の行動の意味について考える。	『源氏物語』紫式部 「桐壺」「若紫」	○	読	○	・WSの記述の点検 ・古語の小テスト ・単元テスト
9 10	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。	・語句の意味をおさえた上で、漢文調の書き出しを味わい、主人公が発狂するまでの過程を整理する。 ・登場人物の心情や置かれた状況と、自らの生活体験を比較する。 ・変身譚に込められた象徴的意味や作者の意図を探る。	『山月記』中島敦	○	読	○	・WSの記述の点検 ・単元テスト
11 12	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。	・最古の伝奇物語を読むことを通して、古文独特の表現方法を知る。 ・月に帰るかぐや姫の心情とその変化を読み取る。	『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」	○	読	○	・WSの記述の点検 ・古語の小テスト ・単元テスト
1	文学的な文章を書くために選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。	・さまざまなパターンで作られた短い物語を読み、物語の着想の起点について考える。 ・小説を書くための材料を探し、キーワード同士を結び付けながら構成を考える。	『私たちの黄色』角田光代 『タイムリミット』朝井リョウ	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価 ・単元テスト
2	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。	・発想を広げ、起承転結のパターンに従ってショートショートを書く。 さまざまな作品を参考にして、構成や展開を工夫する。	『書斎』眉村卓 ショートショートを書こう	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価 ・単元テスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・どのように表現や構成を工夫したら読み手をひきつけられるのかを考えながら、ショートショートの小説を創作する。			・『源氏物語』において、平安朝の貴族社会の恋愛事情や身分制度について学習する(地歴公民)。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
知識・技能や「読むこと」に関する部分は単元テストを中心に評価する。「書くこと」についての評価は、成果物の評価を行うとともに、成果物完成に至るまでのワークシート(以下WS)の記述の点検により評価する。また、単元テストでも応用問題として評価を実施する場合もある。WSの記述の点検については、単元を通して粘り強く自己の学習を調整しているかどうかとも判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
国語便覧等、授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
5	国語	国語表現	4	共通	3	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
国語表現(大修館)				漢字検定対応 級別漢字学習 7級～2級(東京法令出版) 新版六訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) 国語常識の演習と整理 プライム常用国語(第一学習社)			
本科目の学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。					
②思考・判断・表現		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	主な学習活動(指導内容)	使用教科書項目	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	他者を知り、自己を知ろう。	・自己紹介／他己紹介 ・自己分析／自分の将来像を描く	「自己紹介ゲーム」 「自分をみつめて」	○	話	○	・WSの記述の点検 ・生徒の行動観察
5	効果的な自己PRや志望理由を考えよう。	・自分の長所・短所、自己PR文を書く。 ・自分の進路先を想定した志望理由を書く。	「効果的な自己PR」 「志望理由を書く」 「自己推薦書を書く」	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価
6	テーマや課題に合った作文・小論文を書こう。	・作文と小論文の違いを理解する。 ・高校時代についての作文を書く。 ・反論を想定した小論文を書く。	「小論文とは何か」 「発想を広げて書く」 「反論を想定して書く」	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価
7	面接官に自分の思いを正確に伝えよう。	・面接の所作や言葉遣いを確認する。 ・伝えたい内容を整理しまとめる。 ・面接官役、受験生役に分かれてロールプレイを行う。	「面接にチャレンジ」	○	話	○	・WSの記述の点検 ・生徒の行動の観察
9	憧れの職業人にインタビューをしよう。	・インタビュー相手のことを調べ、質問を考える。 ・質問の順番を考え、実際に働いている人にインタビューを行う。	「働く人にインタビュー」 「インタビューの手法とコツ」	○	聞	○	・WSの記述の点検 ・インタビュー記録の点検
10	普通の生活で感じていることをエッセイにしてみよう。	・優れたエッセイから着眼点、構成、文体、表現方法を知る。 ・与えられたテーマでエッセイを書く。	「エッセイを書こう」 『名の世界』(角田光代) 『灰になれ』(森絵都)	○	書	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価
11	話し合いで問題を解決しよう。	・正しい言葉遣いで、自分の意見を短くまとめる。 ・相手の意見も取り入れながら、与えられた課題を話し合いで解決する。	「グループディスカッションをしよう」	○	話	○	・WSの記述の点検 ・ディスカッションの記録の確認 ・生徒の行動の観察
12	探究活動のまとめを発表しよう。	・1年間の探究活動をまとめたスライドを作成する。 ・相手に伝わるように工夫しながらプレゼンを行う。	「プレゼンテーションの工夫」	○	話	○	・WSの記述の点検 ・成果物の評価
1	後輩のインタビューに答えよう。	・話す内容を整理し、順番を決める。 ・後輩から「高校生活について」のインタビューを受ける。	「話すときのツボ」中田薫	○	話	○	・WSの記述の確認 ・インタビュー記録の確認
2	社会生活に必要な書類を書い てみよう。	・書類の注意書きを正しく読み取る。 ・入居申込書、婚姻届、確定申告等を書く。	「文章を読み取って書く」	○	書	○	・WSの記述の点検
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・エッセイの材料となるような、普通の生活の中で心の琴線に触れた出来事を収集し、読者に読んでもらえるように工夫した文章にする。			・総合的な探究の時間の中で、地域の大人と関わったり、観光客の方の話を伺ったりするなど、インタビューを実践する機会を増やす。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
「話すこと」に関する部分はパフォーマンスに至るまでのワークシートの記述の点検と、実際のパフォーマンスにより評価する。「書くこと」についての評価は、成果物の評価を行うとともに、成果物完成に至るまでのワークシートの記述の点検により評価する。パフォーマンスや成果物の評価については、授業内で得た知識を生かしているか、WSの記述の点検については、単元を通して粘り強く自己の学習を調整しているかどうかとも判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
Chromebookや国語便覧等、授業で必要なものについては適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
6	地理歴史	地理総合	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
高等学校 新地理総合(帝国出版) 新詳高等地図				新詳地理資料COMPLETE2024(帝国出版)、高等学校 新地理総合ノート(帝国出版)			
本科目の学習目標							
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。					
③主体的に学習に取り組む態度		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めている。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1)地図や地理情報システムと現代世界	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	・さまざまな地理情報について、地図や地理情報システムを用いて情報を収集し、読み取ったりまとめる技能を身に付ける。 ・地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追及し、解決しようとする。	○		○	課題 授業プリント 1学期中間考査
7		第2章 結び付きを深める現代世界	・現代世界について、自ら主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	課題 授業プリント 単元テスト
9 10 11	B 国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解 (2)地球的課題と国際協力	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	・世界の人々の生活文化の多様性を理解し、その文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを考察し、表現する。	○	○		1学期期末考査
11		第2章 地球的課題と国際協力	・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及し、解決しようとする。		○		○ 課題 2学期中間考査 課題 単元テスト 2学期期末考査
12 1 2	C 持続可能な地域づくりと私たち (1)自然環境と防災 (2)生活圏の調査と地域の展望	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	・日本や世界の自然災害をもとに、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関りとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・自然環境や地域の防災について、自ら主題を設定し、防災への備えを多面的・多角的に考察するとともに、そこで見られる課題を主体的に追及し、解決しようとする。	○			○ 課題 授業プリント
2		第2章 生活圏の調査と地域の展望	・生活圏の地理的な課題を解決するために、調査をもとにさまざまな取り組みや持続可能な地域づくりについて主体的に追及し、解決しようとする。		○	○	単元テスト 学年末考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
諸地域に見られる特徴的な文化について、その背景にある様々な地理的要因を、自ら仮説を立てて考察する。様々な地理的事象が熱海に与える影響に着目し、防災における熱海市の課題を自ら設定し、問題解決の方法を考察する。			熱海の産業や観光客の動向、人口動態について他地域と比較し、熱海の強みを見つけ、熱海市の観光資源について扱う(商業科)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、単元テスト、毎授業で行うポートフォリオの記述の内容、課題、授業プリントの記述の確認等により、知識・技能の習得状況や思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度について総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
7	地理歴史	地理探究	3	文理(文系)	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新詳地理探究(帝国出版) 新詳高等地図				新詳地理資料COMPLETE2024(帝国出版)、新詳地理探究 演習ノート(帝国出版)			
本科目の学習目標							
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。					
③主体的に学習に取り組む態度		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	A現代世界の系統地理的考察	第1部現代世界の系統地理的考察					
5	(1)自然環境	第1章自然環境	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組を理解する。	◎	○	○	授業プリント 1学期中間考査 単元テスト
6	(2)資源、産業	第2章資源と産業	・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、それらの事象の空間的な規則性や傾向性などを多面的・多角的に考察する。	○	◎	○	課題 授業プリント 1学期期末考査
7	(3)交通・通信、観光	第3章交通・通信、観光、貿易	・グラフや写真を用いて、移動手段の発展が時間距離の短縮につながり、グローバル化を促したこと、その一端を担う陸上・水上両交通の特徴について考察する。	○	◎	○	課題 授業プリント
9	(4)人口、都市・村落	第4章人口、村落・都市	・主題図やグラフを用いて、世界の人口分布の特徴とその背景をふまえた上で、地球規模での人口増加の変遷とその要因、今後の予測について考察する。	◎	○	○	単元テスト 課題 授業プリント
10	(5)生活文化、民族・宗教	第5章生活文化、民族・宗教	・生活文化、民族・宗教などに関する主題を設定し、それらに関する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。				2学期中間考査
11	B現代世界の地誌的考察 (1)現代世界の地域区分	第2部現代世界の地誌的考察 第1章現代世界の地域区分	・世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域区分の意義などについて理解する。	◎	○	○	授業プリント 2学期期末考査
12	(2)現代世界の諸地域	第2章現代世界の諸地域	・現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	○	○	◎	授業プリント
1							単元テスト
2	C現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1)持続可能な国土像の探究	第3部現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章持続可能な国土像の探究	・生活圏の地理的な諸課題と地域調査や地図化などでとらえて考察する。	○	◎	○	授業プリント 学年末考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
世界の様々な地域を取り上げていく中で、諸地域と熱海・伊東の類似性に着目し、同様の事象が見られる要因について自ら問いをたて、諸地域と熱海・伊東の繋がりを考察する。			現代文で扱う文学に登場する地理的な情報について、文学が書かれた時代と現代の生活文化や経済の違い、土地利用の変化などについて検証する。(国語科)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) ・学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
8	地理歴史	歴史総合	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
歴史総合(実教出版)				新詳 歴史総合(浜島書店)			
本科目の学習目標							
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	A 歴史の扉 (1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	歴史の扉	・近現代の歴史の大きな変化と私たちの生活との関連について考察し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料を活用し、歴史学習に必要な基本的な技能などを身に付けるとともに、資料と歴史の叙述の関わりについて理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価 ・単元テスト
5	B 近代化と私たち (1)近代化への問い	第1編 近代化と私たち 近代化への問い	・人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察する問いを表現する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
6	(2)結びつく世界と日本の開国	第1章近代化への胎動 第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・18世紀のアジアの経済と社会、工業化と世界市場の形成を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
7	(3)国民国家と明治維新	第3章欧米諸国と日本の国民国家 第4章帝国主義の時代	・立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
9	(4)近代化と現代的な諸課題	近代化と現代的な諸課題	・現代的な諸課題につながる主題について、多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
10	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1)国際秩序の変化や大衆化への問い	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い	・国際秩序の変化や、人々の生活や社会の在り方が大衆化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
11	(2)第一次世界大戦と大衆社会	第5章第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
	(3)経済危機と第二次世界大戦	第6章経済危機と第二次世界大戦	・国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
12	(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・現代的な諸課題につながる主題について、多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	○	○	◎	・授業プリント ・成果物の評価
1	D グローバル化と私たち (1)グローバル化への問い	第3編 グローバル化と私たち グローバル化への問い	・人々の生活や社会の在り方がグローバル化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
2	(2)冷戦と世界経済	第7章冷戦と脱植民地化	・国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
3	(3)世界秩序の変容と日本	第8章多極化する世界 第9章グローバル化と現代世界	・市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・単元テスト
	(4)現代的な諸課題の形成と展望	現代的な諸課題の形成と展望	・持続可能な社会の実現を視野に入れながら、現代的な諸課題につながる主題について、多面的・多角的に考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解する。	○	○	◎	・授業プリント ・成果物の評価
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
世界各国で近代化が展開されていくことについて、その背景や各国の政策がどのようなものであったかを考察する。その際に、グループ活動を通して、近代化が現在の生活にどのような影響を与えたのかを考察し共有する。			産業革命における蒸気機関の仕組みについて、蒸気船の実験を行い、科学的な視点で考察する(理科)。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
定期考査、単元テスト、毎授業で行うポートフォリオの記述の内容、課題、授業プリントの記述の確認等により、知識・技能の習得状況や思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度について総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
9	地理歴史	日本史探究	3	共通	3	選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
日本史探究(実教出版) 新詳高等地図				新詳日本史(浜島書店)			
本科目の学習目標							
社会的事情の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		我が国の歴史の展開に関わる諸事情について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	黎明期の日本列島と歴史的環境 歴史資料と原始・古代の展望 古代の国家・社会の展望と画期	日本文化のあけぼの ヤマト政権の成立と古墳文化	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解させる。	◎	○	○	授業プリント
5		律令国家の形成 古代の国家・社会の変容	地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察する。	○	◎	○	授業プリント 中間考査
6	中世への展開と歴史的環境 歴史資料と中世の展望	荘園公領制の成立と院政	貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解させる。	◎	○	◎	授業プリント
7	中世の国家・社会の展望と画期	中世の国家・社会の変容	地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解させる。	◎	◎	○	期末考査
9	近世への転換と歴史的環境 歴史資料と近世の展望	東アジアの世界の変容と天下統一 幕藩体制の成立と展開	織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解させる。 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察する。	◎	○	○	授業プリント
10	近世の国家・社会の展望と画期		産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解させる。	◎	◎	○	中間考査
11	近代への転換と歴史的環境	開国から倒幕へ	対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解させる。	○	○	◎	授業プリント
12	歴史資料と近代の展望	明治維新	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。	◎	◎	◎	期末考査
1	近現代の地域・日本と世界の画期と構造	両大戦間の日本 十五年戦争と日本	第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解させる。 日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察する。	◎	◎	◎	授業プリント
2	現代の日本の課題の探究	グローバル化のなかの現代	これまでの学習を踏まえ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	◎	◎	◎	レポート 学年末考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
各単元の最初にその時代に関する史料から自ら問いや課題を設定し、単元のまとめとして学んだことから、問いに対する答えを考える活動を行う。			国語科で扱う古典文学について、その時代の政治や経済から作品が書かれた時代背景について考察を行う。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科科目	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別
10	地理歴史	世界史探究	3	共通	3	選択
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等		
世界史探究(実教出版) 新詳高等地図				グローバルワイド最新世界史図表		
本科目の学習目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 評価の観点(規準)とその趣旨						
①知識・技能		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
②思考・判断・表現		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推察、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を捉え解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
③主体的に学習に取り組む態度		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。				
学習計画及び評価方法等						
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点 ①②③	評価方法	
4	A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見ると人類の歴史	1. 地球の誕生と生命の進化	・人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。	◎ ○ ○	授業プリント 単元テスト	
5	(2) 日常生活から見ると世界の歴史	2. 日常生活からみる世界史 ―通信とコミュニケーション―	・諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
6	B 諸地域の歴史的特質の形 (1) 諸地域の歴史的特質への問い	第1部 諸地域の歴史的特質 諸地域の歴史的特質への問い	・生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などに関する資料から、追究したいことなどを主体的に見いだそうとする。	○ ○ ◎	授業プリント 単元テスト	
	(2) 古代文明の歴史的特質	第1章 古代文明	・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
7	(3) 諸地域の歴史的特質	第2章東アジアと中央ユーラシア 第3章南アジアと東南アジア 第4章西アジアと地中海周辺 第5章西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	・古代中国の諸国家やキリスト教などを基盤とした国家などを基に、アジアやヨーロッパの歴史的特質を理解する。	◎ ○ ○	授業プリント 単元テスト	
9	C 諸地域の交流・再編 (1) 諸地域の交流・再編への問い	第2部 諸地域の交流と再編 諸地域の交流と再編への問い	・交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料から、追究したいことなどを主体的に見いだそうとする。	○ ○ ◎	授業プリント 単元テスト	
10	(2) 結び付くユーラシアと諸地域	第6章イスラム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 第7章中央ユーラシアと諸地域の交流・再編	・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラムの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。	◎ ○ ○	授業プリント 単元テスト	
11	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	第8章大交易時代 第9章アンアジア諸地域の帝国 第10章近代ヨーロッパの形成と展開	・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、アジア海域での交易やユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
12	D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い	第3部 諸地域の結合と変容 諸地域の結合と変容への問い	・人々の国際的な移動、自由貿易の広がりが、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する資料から、追究したいことなどを主体的に見いだそうとする。	○ ○ ◎	授業プリント 単元テスト	
	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	第11章産業革命と大西洋革命 第12章近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容、労働力の移動を促す要因、イギリスの新権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを考察したり表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
1	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	第13章地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗 第14章第一次世界大戦と諸地域の变容	世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の原因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを考察したり表現したりする。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
	(4) 第二次世界大戦と諸地域の变容	第15章第二次世界大戦と戦後の国際秩序	世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 単元テスト	
2	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索	第4部 地球世界の課題 第16章冷戦と現代社会	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解する。	◎ ○ ○	授業プリント 単元テスト	
	(2) 経済のグローバル化と格差の拡大	第17章世界経済の展開	・先進国の経済成長と南北問題、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南関係、経済のグローバル化などを基に、格差是正の取組と課題を理解する。	◎ ○ ○	授業プリント 単元テスト	
	(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	第18章科学技術の時代と知識基盤社会	・知識基盤社会の展開と課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。	○ ○ ◎	授業プリント 単元テスト	
	(4) 地球世界の課題の探究	地球世界の課題の探究	地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○ ◎ ○	授業プリント 成果物の評価	
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面		
人類史における大きな転換点について、歴史的資料を根拠に、自分の意見を主張する活動を行うことに加え、大項目目に関して、それまでの歴史的な大きな流れのもとで、現代社会の課題を歴史的観点で考察する。				英語や古典の授業で扱う人物や出来事について、事前に歴史的背景や当時の情勢などを授業内で扱う。		
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) 定期考査、単元テスト、毎授業で行うポートフォリオの記述の内容、課題、授業プリントの記述の確認等により、知識・技能の習得状況や思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度について総合的に判断する。 科目履修・選択上の留意事項 授業時に必要なのは適宜指示する。						

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
11	公民	公共	2	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
高等学校 新公共(第一学習社)				クローズアップ公共(第一学習社)			
本科目の学習目標							
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようとしている。						
②思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	A公共の扉 (1)公共的な空間を作る私たち	第1編公共の扉	青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解する。 行為の判断や選択の場面を想定し、まず目的論と義務論の区別について理解する。 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価
5	(2)公共的な空間における人間としての在り方生き方 (3)公共的な空間における基本原理	第2編自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち		◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価
6				◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価
7				◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価
9	(1)主として法に関わる事項	第1章法的な主体となる私たち 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義	法と道徳や慣習などの規範の特性については、規制する対象や範囲、効力などの点から考察する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
10	(2)主として政治にかかわる事項	第2章政治的な主体となる私たち 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割	民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から考察する。	○	◎	○	・授業プリント ・成果物の評価
11	(3)主として経済に関わる事項	第3章経済的な主体となる私たち 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり	経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。	◎	○	○	・授業プリント ・成果物の評価
12							
1	C持続可能な社会づくりの主体となる私たち	第3編持続可能な社会づくりの主体となる私たち	現代の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して追究する。	○	○	◎	・授業プリント ・成果物の評価
2							
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
日本の政治制度は、明治時代の内閣・議会成立のころと比べてどのような変化があるのか。大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを様々な視点から考察する。			個人の尊厳と法の支配について、ホッブズをはじめとする3人の思想家について人物像と思想について学ぶ(地理歴史科)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) 学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
12	公民	政治・経済	2	福祉・ビジネス観光	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
最新情報政治・経済(実教出版)				テーマ別資料政治経済(東京法令)			
本科目の学習目標							
社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことと妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	現代日本における政治・経済の諸課題 現代日本の政治・経済	第1編 現代日本の政治	・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、などについて現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	◎	○	◎	授業プリント 中間考査
5				◎	◎	○	
6							
7							
9		第2編 現代日本の経済	・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。	◎	○	◎	授業プリント 期末考査
10	◎			◎	○		
11	現代日本における政治・経済の諸課題の探究	第3編 現代日本社会における諸課題の探究	・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、産業構造の変化と起業、歳入・歳出面での財政健全化、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	◎	○	◎	授業プリント 中間考査
12	グローバル化する国際社会の 現代の国際政治・経済	第1編 現代の国際政治	・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む)などに関する国際法の意義、我が国の安全保障と防衛、国際貢献などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。	◎	○	◎	授業プリント 期末考査
1				◎	◎	○	
2			第2編 現代の国際経済	・国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。	◎	○	◎
	グローバル化する国際社会の諸課題の探究	第3編 グローバル化する国際社会の諸課題の探究	・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、イノベーションと成長市場、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	◎	○	◎	授業プリント 学年末考査
自ら課題設定・解決をする場面 (現在の選挙制度について)若者の投票率をみて、どのような課題があり、それを解決するにはどのようにしたら良いのかを考える。			教科横断的な活動をする場面 「日本国憲法の基本原理」を学習をする際に、大日本帝国憲法の歴史について日本史で学ぶ。 「人権保障と法の支配」における、その前段階となる絶対主義についての歴史認識を世界史で学ぶ。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
・学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業時に必要なものは適宜指示する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
13	数学	数学Ⅰ	3	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編数学Ⅰ(第一学習社)、新編数学Ⅰ サポートブック(第一学習社)				新課程版 ネオバル数学Ⅰ・A(第一学習社)			
本科目の学習目標							
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付ける。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6	数と式	1章 数と式 1節 式の展開と因数分解 2節 実数 3節 1次不等式	・数を実数まで拡張する意義を理解し、無理数の四則計算をする。 ・二次の乗法公式及び因数分解公式の理解を深める。 ・式を多面的に見たり目的に応じて式を適切に変形したりする。 ・不等式の性質や解の意味を理解し、一次不等式の解を求める。 ・一次不等式を事象の考察に活用する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
7	集合と論理	4章 集合と論理 1節 集合 2節 命題と証明	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、事象の考察に活用する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
9 10 11 12	2次関数	2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次方程式・2次不等式	・事象から二次関数で表される関係を見出す。 ・二次関数のグラフの特徴を理解する。 ・二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり、最大値・最小値を求めたりする。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 ・数量の関係を二次不等式で表し、グラフを利用して解を求める。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
1	図形と計量	3章 図形と軽量 1節 三角比 2節 図形の計量	・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比を求める。 ・正弦定理や余弦定理について理解する。 ・正弦定理や余弦定理を使って辺の長さや角の大きさを求める。 ・三角比を平面図形や空間図形の考察に活用する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
2	データの分析	第5章 データの分析 第1節 データの分析	・四分位偏差、分散、標準偏差などの意味を理解する。 ・四分位偏差、分散、標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、説明する。 ・散布図や相関係数の意味を理解する。 ・散布図や相関係数を用いて二つのデータの相関を把握し、説明する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
カクシリキを作成し、地図や三角比を利用して周辺にある建物や山の高さを測定する。			2月にデータの分析を行うが、社会科や商業科の科目でのデータを利用して、詳しくデータの特徴を調べたりする。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
14-2	数学	数学Ⅱ	4	文理(文系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編数学Ⅱ(第一学習社)、新編数学Ⅱサポートブック(第一学習社)				新課程版ネオパル数学Ⅱ(第一学習社)			
本科目の学習目標							
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付ける。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	いろいろな式	1章 式と証明 1節 式と計算 2節 等式・不等式の証明	・三次の乗法公式、因数分解、多項式の除法、分数式の四則計算について理解し、その計算をする。 ・等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
5		2章 複素数と方程式 1節 複素数と方程式の解 2節 高次方程式	・数を複素数まで拡張し、二次方程式の解法および判別、解と係数の関係、因数定理を理解し、簡単な高次方程式の解を求める。 ・式の計算の方法を既習の計算と関連付け多面的に考察する。				
6		3章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円の方程式 3節 軌跡と領域	・座標を用いて、平面上の内分点、外分点を表したり、座標平面上の直線や円を方程式で表す。 ・軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表し、問題解決について活用する。				
7							
9	三角関数	4章 三角関数 1節 三角関数 2節 三角関数の加法定理	・一般角、弧度法による角度の表し方、三角関数の値やグラフの特徴、相互関係、加法定理や合成について理解する。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
10							
11		5章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数	・指数を有理数に拡張し、指数法則を用いた計算、対数の意味と性質を理解する。指数・対数関数のグラフの特徴を理解する。 ・指数と対数を相互に関連付けて考察する。				
12							
1	微分・積分の考え	6章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 2節 関数の値の変化 3節 積分	・微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を求める。 ・導関数を用いて値の増減や極大・極小を調べ、グラフをかく。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、その値を求める。 ・積分の考えを用いて、図形の面積を求める方法について考察する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
2							
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
微分・積分の考え方をを用いて、容量の大きい容器づくりを考察する。			等式・不等式の証明に限らず、各単元において公式等の証明を理解していくことで、論理国語において評論文や小論文に必要な言語能力に活かす。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別		
15-2	数学	数学Ⅲ	2	文理(理系)	3	必修選択		
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等				
新編数学Ⅲ(第一学習社)				新課程版スタディ数学Ⅲ(第一学習社)				
本科目の学習目標								
極限、微分法、積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付ける。								
評価の観点(規準)とその趣旨								
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。							
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。							
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。							
学習計画及評価方法等								
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法	
				①	②	③		
4	微分法	第3章 微分法とその応用 第2節 微分法の応用	・いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形を描かせる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート	
5								
6		極限	第2章 極限 第1節 数列の極限	・数列の極限について理解し、簡単な数列の極限を求めさせる。 ・無限級数の収束、発散について理解し、簡単な無限級数の和を求めさせる。				
7								
9	積分法	第2節 関数の極限	・簡単な分断関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解させる。 ・合成関数や逆関数の意味を理解させ、簡単な場合についてそれらを求めさせる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート	
10		第4章 積分法とその応用 第1節 積分法とその応用 第2節 定積分	・不定積分及び定積分の基本的な性質について理解させる。 ・置換積分法・部分積分法について理解させ、簡単な場合について求めさせる。 ・いろいろな関数の積分計算を工夫して求めさせる。					
11								
12								
1		第3節 積分法の応用	・曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを定積分を利用して求めさせる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面					
自然対数の底eは、「数学Ⅲ」ではじめて取り扱う。その際、極限 $\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{x}\right)^x$ 及び $\lim_{x \rightarrow 0} (1 + x)^{\frac{1}{x}}$ が収束することを、コンピュータを用いて理解させる。			直線上・平面上を運動する速度や加速度との微分の関係を学習し、物理の公式や演算への理解を深める。					
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)								
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。								
科目履修・選択上の留意事項								
授業における必要なものは適宜指定する。								

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
16	数学	数学A	2	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編数学A(第一学習社)、新編数学Aサポートブック(第一学習社)				新課程版ネオパル数学Ⅰ・A(第一学習社)			
本科目の学習目標							
場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付ける。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	場合の数と確率	1章 場合の数 1節 数え上げの原則 2節 順列・組合せ 2章 確率 1節 確率の基本性質と いろいろな確率	・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、 順列の総数や組合せの総数を求める。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、 それらを用いて事象の確率や期待値を求める。 ・事象の構造や確率の性質に着目し、場合の数や確率を 求める方法を多面的に考察する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
9 10 11 12	図形の性質	3章 図形の性質 1節 三角形の性質 2節 円の性質 3節 空間図形	・三角形、円、空間図形に関する基本的な性質について 理解する。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の新たな 性質を見いだし、その性質について論理的に考察する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
1 2	数学と人間の活動	4章 数学と人間の活動 1節 数学と人間の活動	・数量や図形に関する概念などと人間の活動との 関わりについて理解する。 ・パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて 数学を活用して考察する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
「数学と人間の活動」において、数学的な考え方を人間生活に取り入れる学習を行う。				2進法による数の表現(情報)			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) 学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
17	数学	数学B	2	文理(理系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編数学B(第一学習社)				新課程版ネオパル数学B(第一学習社)			
本科目の学習目標							
数列、統計的な推測について理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	数列	1章 数列 1節 数列とその和 2節 いろいろな数列の和 3節 漸化式と数学的帰納法	・数の並びの規則性について関心を持ち、考察しようとする。 ・等差数列や等比数列の一般項や和の公式を理解し、活用することができる。 ・和の記号 Σ について理解し、活用できる。 ・階差数列について理解し、活用できる。 ・漸化式を活用し、一般項を考察できる。 ・数学的帰納法について理解し、証明に活用することができる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
9 10 11 12	統計的な推測	2章 統計的な推測 1節 確率分布 2節 統計処理	・確率の基本的な性質を理解し、基本的な場合について確率を求めることができる。 ・確率変数と確率分布について理解し、確率分布を表に示すことができる。 ・確率変数の期待値を求めることができる。 ・確率変数の分散・標準偏差を求めることができる。 ・標本調査の考え方について理解し、標本を用いて母集団の傾向を推測できることを知る。 ・母平均の統計的な推測について理解し、事象の考察に活用することができる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
1	数学と社会生活	3章 数学と社会生活 1節 数学と社会生活	・標本調査の考え方について理解を深める。 ・確率変数と確率分布、二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。 ・正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。 ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察すること。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
5月に等比数列を扱う。将来、ローンを組んで買い物をしたときの支払金額や投資について、和の公式や複利計算を用いて考察する。			9月に確率分布の単元を扱う。数学Aで学習したことを活かして、授業内容の習得を円滑に促す。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。 また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別			
18	数学	数学C	2	文理(理系)	3	必修選択			
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等					
新編数学C(第一学習社)				新課程版スタディ数学C(第一学習社)					
本科目の学習目標									
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。									
評価の観点(規準)とその趣旨									
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。								
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。								
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。								
学習計画及評価方法等									
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法		
				①	②	③			
4 5 6 7	ベクトル	1章 平面上のベクトル 1節 ベクトルとその演算 2節 平面図形とベクトル 2章 空間のベクトル 1節 空間のベクトル	・ベクトルの作図ができる。 ・ベクトルの成分計算ができる。 ・内積の基本計算ができる。 ・内積を用いて、2つのベクトルのなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルを用いて、図形の考察ができる。 ・空間図形においてもベクトルを用いて関心を持ち、考察することができる。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート		
9 10 11 12		3章 複素数平面 1節 複素数平面 4章 式と曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	・複素数平面と複素数の極形式、演算による図形的な意味を理解する。 ・ド・モアブルの定理について理解する。 ・放物線、楕円、双曲線の基本的な性質について理解する。 ・曲線の媒介変数表示について理解する。 ・極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解する。	○	○	○		定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート	
1		5章 数学的な表現の工夫 1節 行列とその計算 2節 離散グラフ 3節 統計グラフと表現の工夫	・日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフなどを用いて工夫して表現することの意義を理解する。 ・日常の事象や社会の事象などを、離散グラフや行列を用いて工夫して表現することの意義を理解する。 ・図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し、考察すること。	○	○	○			定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面						
1月に離散グラフを扱う。路線図などをグラフ化し、一筆書きできるか等を考察し、インフラ整備の整合性を考察する。			4月にベクトルの単元を扱う。ここで学習したことを活かして、物理の力学の授業がスムーズに進められるようになる。						
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)									
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。 また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。									
科目履修・選択上の留意事項									
授業における必要なものは適宜指定する。									

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
19	数学	数学Ⅰ 演習	2	福祉・ビジネス観光・文系	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
				新課程版アクセスノート数学Ⅰ(実教出版)			
本科目の学習目標							
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力をより伸ばす。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	数と式	第1章 数と式 整式の加法・減法・乗法、展開 因数分解、平方根、分母の有理化 1次不等式、連立不等式	・数を実数まで拡張する意義を理解し、無理数の四則計算をする。 ・二次の乗法公式及び因数分解公式の理解を深める。 ・式を多面的に見たり目的に応じて式を適切に変形したりする。 ・不等式の性質や解の意味を理解し、一次不等式の解を求める。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
5							
6							
7	2次関数	第3章 2次関数 2次関数のグラフ、最大・最小 2次関数の決定、2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	・二次関数のグラフの特徴を理解する。 ・二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり、最大値・最小値を求めたりする。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 ・数量の関係を二次不等式で表し、グラフを利用して解を求める。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
9	図形と計量	第4章 図形と計量 三角比、三角比の性質 三角比の拡張、三角比の符号 三角比と角の大きさ 三角比の相互関係、正弦定理 余弦定理、三角形の面積 内接円と面積、空間図形	・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比を求める。 ・正弦定理や余弦定理について理解する。 ・正弦定理や余弦定理を使って辺の長さや角の大きさを求める。 ・三角比を平面図形や空間図形の考察に活用する。	○	○	○	
10							
11							
12							
1	集合と論証	第2章 集合と論証 集合、命題と条件、逆・裏・対偶	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、事象の考察に活用する。	○	○	○	定期考査 提出物 ノート確認 振り返りシート
	データの分析	第5章 データの分析 データの代表値、四分位数 分散と標準偏差、データの相関 データの外れ値、仮説検定	・四分位偏差、分散、標準偏差などの意味を理解する。 ・四分位偏差、分散、標準偏差などを用いてデータの傾向を把握する。 ・散布図や相関係数の意味を理解する。 ・散布図や相関係数を用いて二つのデータの相関を把握し、説明する。				
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
三角比を用いて、織姫と彦星の距離を求めてみよう。			データの相関関係や集合の包含関係をを学習する。これを社会科や商業科のデータの読み取りや問題の分析に応用させる。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度やノートの記述等を多面的に評価する。 また、定期考査、課題等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
20-1	理科	科学と人間生活	1	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
科学と人間生活(数研出版)							
本科目の学習目標							
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養おうとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点 ①②③			評価方法
4	1 科学技術の発展	ア 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現する。	○	○	○	一学期期末考査 授業プリント ポートフォリオ 課題レポート
5				○	○	○	
6							
7							
9	2 人間生活の中の科学	ア 光や熱の科学 1、光の性質とその利用	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解する。	○	○	○	二学期期末考査 ポートフォリオ 授業プリント 課題レポート
10							
11							
12							
1		イ 物質の科学 1、材料とその利用	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解する。	○	○	○	ポートフォリオ 授業プリント 課題レポート
2							
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・人間生活の中で活かされている科学技術 ・科学技術と人間生活の付き合い方 ・日常生活における光の活用 ・資源の再利用			・科学技術の発展(家庭、保健体育) ・光の性質と利用(数学) ・材料とその利用(家庭)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う。							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。 ・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。 ・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
20-2	理科	科学と人間生活	1	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
科学と人間生活(数研出版)							
本科目の学習目標							
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養おうとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ①②③			評価方法
4 5 6 7	2 人間生活の中の科学	ウ 生命の科学 1、ヒトの生命現象	ヒトの生命活動に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解する	○	○	○	一学期期末考査 ポートフォリオ 授業プリント 課題レポート
9 10 11 12	2 人間生活の中の科学	エ 宇宙や地球の科学 2、自然景観と自然災害	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について人間生活と関連付けて理解する。	○	○	○	二学期期末考査 ポートフォリオ 授業プリント 課題レポート
1 2 3	3 これからの科学と人間生活	ア これからの科学と人間生活	これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深める。 これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現する。	○	○	○	ポートフォリオ 課題レポート 授業プリント
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・免疫と感染症 ・自然災害と防災 ・科学と人間生活の関わり方			・糖尿病(保健体育) ・自然災害と防災(探究)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う。							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。 ・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。 ・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
23	理科	化学基礎	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編 化学基礎(東京書籍)							
本科目の学習目標							
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	(1) 化学と人間生活	ア 化学と物質 1、化学の特徴	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解する。	○	○	○	1学期中間考査 ポートフォリオ 課題レポート 授業プリント
5		2、物質の分離、精製	物質の分離や精製の実験などを行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。	○	○	○	
6		3、単体と化合物	元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解する。	○	○	○	
7		4、熱運動と物質の三態	粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。	○	○	○	
9	(2) 物質の構成	ア 物質の構成粒子 1、原子の構成	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。	○	○	○	1学期期末考査 ポートフォリオ 授業プリント
10		2、電子配置と周期表	元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	○	○	○	
11	(3) 物質の変化とその利用	イ 物質と化学結合 1、イオンとイオン結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。	○	○	○	2学期中間考査 ポートフォリオ 課題レポート 授業プリント
12		2、分子と共有結合	共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解する。	○	○	○	
1		3、金属と金属結合	金属の性質及び金属結合を理解する。	○	○	○	
2	(3) 物質の変化とその利用	ア 物質質量と化学反応式 1、物質質量	物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する	○	○	○	2学期期末考査 ポートフォリオ 授業プリント
3		2、化学反応式	化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。	○	○	○	
1		イ 化学反応 1、酸・塩基と中和	酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	○	○	○	学年末考査 ポートフォリオ 課題レポート 授業プリント
2		2、酸化と還元	酸化と還元が電子の授受によることを理解する。	○	○	○	
3		ウ 化学が拓く世界	この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	○	○	○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・科学技術が人間生活の中でどのように活かされているか ・日常生活における様々な物質との関係			・指数対数(物質質量)に関する事項(数学) ・イオンに関する事項(保健体育)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う。							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。 ・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。 ・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型		履修学年	選択・必修の別
24	理科	生物基礎	2	共通		2	必修選択
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
新編 生物基礎(東京書籍)							
本科目の学習目標							
生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	ア 生命の特徴	1、生物の共通性と多様性	様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを見いだして理解する。	○	○	○	・課題プリント ・実験
5		2、生物とエネルギー	生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。また、呼吸や光合成などの代謝とATPを関連付けて理解する。	○	○	○	・観察 ・1学期中間試験
6		イ 遺伝子とその働き	1、遺伝情報とDNA	DNAの構成に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。	○	○	○
7	2、遺伝情報とタンパク質の合成		遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。	○	○	○	・観察 ・1学期末試験
9	ウ ヒトの体の調節	1、情報の伝達	体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。	○	○	○	・課題プリント ・実験
10		2、体内環境の維持の仕組み	体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。	○	○	○	・観察 ・1学期中間試験
11		エ 免疫	1、免疫の働き	免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。	○	○	○
12							
1	オ 生物の多様性と生態系	1、植生と遷移	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解する。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察
2		2、生態系と生物の多様性	生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解する。	○	○	○	・学年末試験
3		3、生態系のバランスと保全	生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的かく乱を関連付けて理解する。また、生態系の保全の重要性を認識する。	○	○	○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・遺伝情報の分配や突然変異について遺伝的多様性の重要性について考える。 ・体内環境を維持する仕組みと重要性について考える。 ・生態系の重要性について考える。			・タンパク質の合成(家庭) ・体内環境の維持(保健体育) ・免疫反応(保健体育)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う。							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。 ・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。 ・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
27	理科	化学	4	文理(理系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
化学 Vol.1 理論編(東京書籍)、化学 Vol.2 物質編(東京書籍)							
本科目の学習目標							
化学的な事物・現象に関わり、理科の見方、考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。					
②思考・判断・表現		観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点 ①②③			評価方法
4 5	物質の状態と平衡	ア 物質の状態とその変化 イ 溶液と平衡	物質の状態とその変化、溶液と平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・1学期中間試験
6 7	物質の変化と平衡	ア 化学反応とエネルギー イ 化学反応と化学平衡	化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・1学期末試験
9 10	無機物質の性質	ア 無機物質	無機物質について次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・2学期中間試験
11 12	有機化合物の性質	ア 有機化合物 イ 高分子化合物	有機化合物、高分子化合物について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 有機化合物、高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・2学期末試験
1 2 3	化学が果たす役割	ア 人間生活の中の化学	化学が果たす役割を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解する。 人間生活の中の化学について、これからの社会における化学が果たす役割を科学的に考察し、表現することができる。	○	○	○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・学年末試験
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・有機化合物の性質と応用 ・高分子化合物の応用や利用			・指数対数に関する事項(数学) ・医薬品や有害物質としての有機化合物(保健体育) ・高分子化合物の利用(家庭)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
28	理科	生物	4	文理(理系)	3	選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
生物(東京書籍)							
本科目の学習目標							
生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。					
②思考・判断・表現		観察や実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	生物進化 生命現象と物質	ア 生命の起源と細胞の進化 イ 遺伝子の変化と進化の仕組み ウ 生物の系統と進化 ア 細胞と分子 イ 代謝	生物の進化について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付ける。 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現することができる。 生命現象と物質について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付ける。 生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現することができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・1学期中間試験 ・課題プリント ・実験 ・観察 ・1学期末試験
9 10 11 12	遺伝情報の発現と発生 生物の環境応答	ア 遺伝情報とその発現 イ 発生と遺伝子発現 ア 動物の反応と行動 イ 植物の環境応答	遺伝情報の発現と発生について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付ける。 遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報の発現と発生についての特徴を見いだして表現することができる。 生物の環境応答について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付ける。 生物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、生物の環境応答についての特徴を見いだして表現することができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・2学期中間試験 ・課題プリント ・実験 ・観察 ・2学期末試験
1 2 3	生態と環境	ア 個体群と生物群集 イ 生態系	生態と環境について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付ける。 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・課題プリント ・実験 ・観察 ・学年末試験
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・バイオテクノロジーの重要性と問題課題 ・植物と動物の違いとはなにか ・生態系における種の多様性とその重要性 ・生物の進化はどのように起こるのか			・代謝とエネルギーに関する分野(保健体育、家庭) ・生態系と多様性(現代社会)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
評価規準に従って総合的に評価を行う。							
科目履修・選択上の留意事項							
・理科室を使用する頻度が高いが、理科室及び理科室にある物品の扱い方のルールを遵守すること。 ・教科の特性上、危険を伴う場合があるため、教員の指示は必ず聞くこと。 ・授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
29-1	保健体育	体育	3	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育ノート(大修館) ステップアップ高校スポーツ(大修館)			
本科目の学習目標							
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育む。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。						
②思考・判断・表現	運動の魅力を感じたり自己の体力を向上させたりするための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。						
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・責任・参画・一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して運動に取り組もうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	オリエンテーション 体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動・集団行動	・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。	○	○	○	実技
5	球技	ゴール型:バスケットボール	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
6		ネット型:バレー・バドミントン					
6	水泳	クロール・平泳ぎ・遠泳	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
7							
9	水泳・体育理論	スポーツの発祥と発展	・スポーツの意義や特性、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻く問題について理解し、その解決を目指した学習をできるようにする。	○	○	○	提出物
	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画	・自己の体に関心を持ち、体力や生活に応じた課題を持って運動し、体力を高めさせる。	○	○	○	実技
10	陸上競技	短距離走・投擲・跳躍	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
11	陸上記録会	ゴール型:バスケットボール ネット型:バレー・バドミントン	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
12	球技						
1	陸上競技	長距離走	・自己に適したペースを維持して走ったり、一定の距離や時間の中で、自己の課題に応じて体力を高めさせる。	○	○	○	実技・学習カード
2	マラソン大会	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解し、その解決を目指した学習をできるようにする。	○	○	○	提出物
	体育理論						
	球技	ゴール型:バスケットボール ネット型:バレー・バドミントン	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
健康の保持増進と体力の向上を図る手段として、食への関心を高めていく。特に朝食の重要性に気づいたり、どんな内容が好ましいか実践とともに考察する。			家庭科の食育で学んだ知識を活用し、生活の中で実践する。体育の授業においてパフォーマンス向上に繋がっているか検証する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
年間を通して、毎時間ごとに集合・整列、準備体操・補強運動・ランニングでの取り組みの様子を評価する。加えて各種目ごとの技能の高まり、学習カードの記述内容、知識の理解度などを観点別に評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
29-2	保健体育	体育	3	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育ノート(大修館) ステップアップ高校スポーツ(大修館)			
本科目の学習目標							
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育む。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。						
②思考・判断・表現	運動の魅力を感じたり自己の体力を向上させたりするための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。						
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・責任・参画・一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して運動に取り組もうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	オリエンテーション 体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動・集団行動	・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。		○	○	実技
5 6	球技	ゴール型：サッカー ネット型：バレー・バドミントン	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○		実技・学習カード
6 7	水泳	クロール・平泳ぎ・遠泳	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。	○		○	実技・学習カード
9	水泳・体育理論 体づくり運動	運動・スポーツの学び方 実生活に生かす運動の計画	・運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学び、身に着ける。 ・自己の体に関心を持ち、体力や生活に応じた課題を持って運動し、体力を高めさせる。	○	○		提出物 実技
10	陸上競技	短距離走・投擲・跳躍	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。	○		○	実技・学習カード
11 12	陸上記録会 球技	ゴール型：サッカー ネット型：バレー・バドミントン	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○		実技・学習カード
1	陸上競技	長距離走	・自己に適したペースを維持して走ったり、一定の距離や時間の中で、自己の課題に応じて体力を高めさせる。		○	○	実技・学習カード
2	マラソン大会 体育理論 球技	運動・スポーツの学び方 ゴール型：サッカー ネット型：バレー・バドミントン	・運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学び、身に着ける。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	提出物 実技・学習カード
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
健康の保持増進と体力の向上を図る手段として、食への関心を高めていく。特に朝食の重要性に気づいたり、どんな内容が好ましいか実践とともに考察する。				家庭科の食育で学んだ知識を活用し、生活の中で実践する。体育の授業においてパフォーマンス向上に繋がっているか検証する。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
年間を通して、毎時間ごとに集合・整列、準備体操・補強運動・ランニングでの取り組みの様子を評価する。加えて各種目ごとの技能の高まり、学習カードの記述内容、知識の理解度などを観点別に評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
29-3	保健体育	体育	2	共通	3	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育ノート(大修館) ステップアップ高校スポーツ(大修館)			
本科目の学習目標							
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育む。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。						
②思考・判断・表現	運動の魅力を感じたり自己の体力を向上させたりするための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。						
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・責任・参画・一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して運動に取り組もうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	オリエンテーション 体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動・集団行動	・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。		○	○	実技
5 6	選択球技1	ゴール型・ネット型・ベースボール型	・生涯にわたって運動を継続するため、自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
6 7	水泳	クロール・平泳ぎ・遠泳	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。	○		○	実技・学習カード
9	水泳・体育理論 体づくり運動	豊かなスポーツライフの設計 実生活に生かす運動の計画	・生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。 ・自己の体に関心を持ち、体力や生活に応じた課題を持って運動し、体力を高めさせる。	○	○		提出物 実技
10	陸上競技	短距離走・投擲・跳躍	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。		○	○	実技・学習カード
11 12	陸上記録会 選択球技2	ゴール型・ネット型・ベースボール型	・生涯にわたって運動を継続するため、自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
1	体育理論	豊かなスポーツライフの設計	・生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。	○	○		提出物
2	選択球技2	ゴール型・ネット型・ベースボール型	・生涯にわたって運動を継続するため、自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○	○	○	実技・学習カード
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
健康の保持増進と体力の向上を図る手段として、食への関心を高めていく。特に朝食の重要性に気づいたり、どんな内容が美味しいか実践とともに考察する。			家庭科の食育で学んだ知識を活用し、生活の中で実践する。体育の授業においてパフォーマンス向上に繋がっているか検証する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
年間を通して、毎時間ごとに集合・整列、準備体操・補強運動・ランニングでの取り組みの様子を評価する。加えて各種目ごとの技能の高まり、学習カードの記述内容、知識の理解度などを観点別に評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
30-1	保健体育	保健	1	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育ノート(大修館)			
本科目の学習目標							
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。					
②思考・判断・表現		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	1単元 現代社会と健康 ア 健康の考え方 イ 生活習慣病などの予防と回復	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	・健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解できる。・健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解できる。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート ○ 授業振り返りシート ノート ○ 授業振り返りシート 期末テスト	
9 10 11 12	ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 エ 精神疾患の予防と回復 オ 現代の感染症とその予防	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	・喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になることを理解できる。 ・薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。また、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できる。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること、また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解できる。 ・感染症の発生には、時代や地域によって違いがみられること、また、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解できる。 ・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート ○ 授業振り返りシート ノート ○ 授業振り返りシート ノート ○ 授業振り返りシート 期末テスト	
1 2	2単元 安全な社会生活 ア 安全な社会づくり イ 応急手当	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解できる。 ・交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、環境の整備が関わることを理解できる。 ・交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解できる。 ・応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや正しい手順や方法があることを理解し、応急手当ができるようにする。 ・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの使用が必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート ○ 授業振り返りシート ノート ○ 授業振り返りシート 学年末テスト	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
自らの健康を見つめ、特に食の観点で体調管理の手段を考察し実践する。			食事と健康の内容を家庭科と連携して学習することで、重要性を実感させたい。 応急手当の内容を福祉科のリハビリと関連付けて学習することで適切な応急手当等により、悪化を防ぐことの重要性を実感させたい。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
授業の態度、定期テストの結果、ノートの記述内容、授業振り返りシート等を参考に、観点別に評価をする。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
30-2	保健体育	保健	1	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育ノート(大修館)			
本科目の学習目標							
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。						
②思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。						
③主体的に学習に取り組む態度	自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	3単元 生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることが理解できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート 授業振り返りシート 期末テスト
9 10 11 12	イ 労働と健康 4単元 健康を支える環境づくり ウ 環境と健康 エ 食品と健康	8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 11 大気汚染と健康 12 水質汚濁、土壌汚染と健康 13 環境と健康にかかわる対策 14 ごみの処理と上下水道の整備 15 食品の安全性 16 食品衛生にかかわる活動	・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する障害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解できる。 ・人間の生活や産業活動は自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあるため、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があることを理解できる。 ・環境衛生活動は学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解できる。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることや、食品の安全誌を確保するよう基準が設定され、それに基づいて食品衛生活動が行われていることを理解できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート 授業振り返りシート ノート 授業振り返りシート ノート 授業振り返りシート 期末テスト
1 2	オ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	17 保健サービスとその活用 18 医療サービスとその活用 19 医薬品の制度とその活用 20 さまざまな保健活動や社会的対策 21 健康に関する環境づくりと社会参加	・保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であると理解できる。 ・医薬品は有効性や安全性が審査されており、販売に制限があることや医薬品をただしく使用することが疾病からの回復や悪化の防止に必要なことを理解できる。 ・健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策が行われていることを理解できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方を活かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であると理解できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	ノート 授業振り返りシート ノート 授業振り返りシート 学年末テスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
年齢とともに変化する健康課題を考え、労働環境、社会環境等の在り方を学び、社会全体の健康を高める意識を構築する。			健康を支える環境づくりについて学ぶため、社会や理科と連携して過去の公害や海洋プラスチックによる過去や現代の環境問題について学ぶ機会を設ける。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
授業の態度、定期テストの結果、ノートの記述内容、授業振り返りシート等を参考に、観点別に評価をする。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
31-1	芸術	音楽Ⅰ	2	共通	1	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
音楽Ⅰ Tutti+(教育出版)				ミュージックノート(教育出版)			
本科目の学習目標							
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。						
②思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を表現しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。						
③主体的に学習に取り組む態度	主体的・共働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5	歌唱 音楽理論	花は咲く	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って発声することができる。 音符、拍子について説明することができる。	◎	○	○	歌唱 課題提出
6	楽器・歌唱 音楽理論	楽典	詩の内容を理解し正しい音程で日本歌曲をうたうことができる。音名を知る。	◎	○	○	歌唱 課題提出
7	鑑賞		正しい呼吸法で、曲想を大切にしながらイタリア歌曲を歌うことができる。正しい運指でリコーダーを演奏することができる。 音楽記号を理解する。	◎	○	○	筆記テスト 課題提出
9 10	日本音楽 音楽理論	リコーダー	平易な旋律を聴いて楽譜に書き取ることができる。	○	○	○	課題提出
11	歌唱 器楽		ベルカントの発声法を学び、ドイツ語の特徴と曲想を活かしながら歌唱することができる。	○	○	○	歌唱 課題提出
12	合唱 音楽理論	楽典	曲想を大切にしながら演奏の工夫をすることができ	○	○	◎	歌唱
1	創作アンサンブル 器楽		仲間と協力し、表現の工夫をしながら人前で演奏することができる。	○	◎	○	課題提出 発表
2	創作アンサンブル まとめ	グループ台奏	自分の考える音楽を、音符を用いて表現することができる。正しい奏法でギターが演奏できる。 学習を振り返る。 楽曲の構成や特長、楽器や声質の違いを感じ取り言葉で表す。	○	○	○	課題提出
				○	◎	○	課題提出
				◎	○	○	課題提出
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
外部講師(音楽家、バンドマンなど)をお招きし、熱海を音楽で盛り上げるために何ができるか考える。			自分の好きな音楽の良さを言葉にする活動で、国語科の教員が表現についての授業を行う。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
授業に取り組む姿勢、提出作品の教員による評価、クラスメイトによる相互評価、道具の使い方、知識についてのテストや『ミュージックノート』の提出等							
科目履修・選択上の留意事項							
音や音楽に興味があることが大切。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
31-2	芸術	書道Ⅰ	2	共通	1	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
書道Ⅰ(東京書籍)				硬筆レッスン(教育図書)			
本科目の学習目標							
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。					
③主体的に学習に取り組む態度		主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5	硬筆 書写から書道へ		基本的な文字の書き方を身に付ける。 書写と書道の違いを知る。	○	○	◎	課題提出 ワークシート 行動の観察
6 7	楷書の鑑賞と臨書 豪刻の学習		古典作品の鑑賞と臨書を行う。(初唐の三大家や顔真卿と北魏書) 豪書を用い、名印の印稿、字入れを行う。	◎	○	○	課題提出 ワークシート 課題提出 評価テスト
9 10 11 12	行書の鑑賞と臨書 行書の鑑賞と臨書Ⅱ 隷書の鑑賞と臨書 作品の鑑賞と作品制作		行書の特徴、運筆を学ぶ。 (蘭亭序、風信帖) 行書の特徴、運筆を学ぶ。 (蘭亭序、風信帖) 隷書の特徴、運筆を学ぶ。 (曹全碑、木簡等) 復習を含め、作品制作する。	◎	○	○	課題提出 ワークシート 課題提出 ワークシート 課題提出 ワークシート 作品提出 行動の観察 評価テスト
1 2	仮名の鑑賞と臨書 漢字仮名交じりの書		仮名の単体、連綿を学び、日本の文化を味わう。 漢字と仮名を調和させ、座右の銘を書く。	◎	○	○	小テスト ワークシート 作品提出 行動の観察 評価テスト
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
外部講師(書家、墨絵アーティストなど)をお招きし、熱海をアートで盛り上げるために何ができるか考える。				自分の好きな本の一節を書きにする活動で、国語科の教員が本の選び方についての授業を行う。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) 授業に取り組む姿勢、提出作品の教員による評価、クラスメイトによる相互評価、道具の使い方、知識についてのテストや『硬筆レッスン帳』の提出等							
科目履修・選択上の留意事項 書や文字に興味があることが大切。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
32	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
COMET English Communication Ⅰ(数研出版)				COMET英単語(数研出版) COMET英単語学習ノート(数研出版) 改訂版COMET English Communication Ⅰ ベーシックノート(数研出版) Melody英語入門ノート(数研出版)			
本科目の学習目標							
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 1	What did you do in Japan?	外国人が日本で経験したことを読み取る 思い出に残っている経験を英語で述べる	○	○		定期考査 パフォーマンステスト
5	Lesson 2	When do you feel happy?	書き手がどんな時に幸せに感じるかを聞き取る 自分の好きなことについて英語で述べる	○	○		定期考査 パフォーマンステスト
6	Lesson 3	Onigiri goes Overseas	おにぎりの人気の理由について聞き取る 日本の文化を聞き手に分かりやすく紹介する	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
7	Lesson 4	Pictograms	ピクトグラムの仕組みについて情報を読み取る 身の回りにあるピクトグラムを英語で紹介しあう	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
9	Lesson 5	Morita Yuko Hospital facility dog handler	ハンドラーについて情報を整理できる 興味のある職業について英語で述べる	○	○		定期考査 パフォーマンステスト
10	Lesson 6	Convenience stores Keys to their success	コンビニ成功の秘訣について、情報を整理できる 自分の好きな店やよく行く店を英語で紹介する	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
11	Lesson 7	High school aquarium	水族館を運営する高校生の情報を整理できる 自分たちの学校の特色を英語でPRする	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
12	Lesson 8	Smart farming	農業でのIT技術について情報を整理できる 身の回りの技術について分かりやすく伝える	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
1	Lesson 9	Food waste	食品ロスの現状について情報を整理できる 食品ロスの対策を聞き手に訴えることができる	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
2	Lesson 10	William and his windmill	ある少年の取り組みについて情報を整理できる 自分の地域課題の解決策を伝えることができる	○	○	○	定期考査 パフォーマンステスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 8の単元で、コンビニの成功のカギについて理解する。身近な人や物について成功例を調べる。なぜ成功したのか、具体例も交えて考察、発表することができる。			Lesson 10の単元で、地域のために自分ができることを考える。探究活動において学んだことを英語で表現することができる。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況の評価する。具体的には、授業内での取り組み、ベーシックノートや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査を通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
33-1	外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
COMET English Communication Ⅱ(数研出版)				COMET英単語(数研出版) COMET英単語学習ノート(数研出版) 改訂版COMET English CommunicationⅡ ベーシックノート(数研出版)			
本科目の学習目標							
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		英語を聞いたり読んだりして、情報や考え等を的確に理解することができる。					
②思考・判断・表現		①で得た知識・技能を用いて情報や考えなどを書いたり話したりして適切に伝えることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		異文化に興味を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	Lesson 1 Lesson 2	Places Worth Visiting Iwago Mitsuaki: Animal Photographer	行ってみたい場所を英語で紹介する 好きな写真を英語で紹介する	○ ○	◎ ◎	○ ○	授業内での取り組み 提出物の内容 パフォーマンステスト 定期考査
9 10 11 12	Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5	The Haka Digital Detox Goal Setting	世界の文化を英語で紹介する デジタル機器との関わり方について、 自分の考えを英語で述べる 目標を英語で述べる	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	
1 2	Lesson 6 At a Fast-food Restaurant	The High School Hair Salon William and his windmill	就きたい職業を英語で述べる ファーストフード店でのやりとり	○ ○	◎ ◎	○ ○	授業内での取り組み 提出物の内容 パフォーマンステスト 定期考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 4の単元で、デジタル機器とのかかわり方や課題点について自分の考えを述べる。デジタル機器を使用するメリットやデメリットを客観的に考察することができる。			Lesson 3で世界の文化について説明する。探究活動の国際班で学んだ異文化理解を、さらに発展させ、日本文化との違いについて考察する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況を評価する。具体的には、授業内での取り組み、ベーシックノートや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査を通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
33-2	外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	共通	3	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
COMET English Communication Ⅱ(数研出版)				COMET英単語(数研出版) COMET英単語学習ノート(数研出版) 改訂版COMET English Communication Ⅱ ベーシックノート(数研出版)			
本科目の学習目標							
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		英語を聞いたり読んだりして、情報や考え等を的確に理解することができる。					
②思考・判断・表現		①で得た知識・技能を用いて情報や考えなどを書いたり話したりして適切に伝えることができる。					
③主体的に学習に取り組む態度		異文化に興味を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 7	You can make a difference	環境のためにできることを英語で述べる	○	◎	○	授業内での取り組み 提出物の内容 パフォーマンステスト 定期考査
5				○	◎	○	
6	Lesson 8	Nudge	身の回りの問題の解決策や工夫を英語で述べる	○	◎	○	
7				○	◎	○	
9	Lesson 9	The Father of Braille Blocks	だれもが暮らしやすい社会について英語で述べる	○	◎	○	授業内での取り組み 提出物の内容 パフォーマンステスト 定期考査
10	Lesson 10	Do we need that?	必要・不要だと思うサービスを英語で述べる	○	◎	○	
11	Lesson 11	The cancouver Asahi	人権の問題について英語で述べる	○	◎	○	
12				○	◎	○	
1	Lesson 12	From small companies to the world	日本で開発・改良された優れた製品を英語で紹介する	○	◎	○	授業内での取り組み 提出物の内容 パフォーマンステスト 定期考査
2	The Story of Malala Yousafzai		マララさんの話を読んで、平和について自分の考えを英語で述べる	○	◎	○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 7 の単元では環境問題について考える。身近な場面で、自分が何ができるかを考え、実行する。環境問題に対する自分の意見を英語で述べる ことができる。			Lesson 9 の単元でバリアフリーについて学ぶ。福祉の授業と協働して福祉の授業で得た知識を活かし、暮らしやすい社会にするために何が必要かを考え、英語で述べる ことができる。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況を評価する。具体的には、授業内での取り組み、ベーシックノートや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査を通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
34	外国語	論理・表現Ⅰ	2	文理	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
VISTA Logic and Expression Ⅰ (三省堂)				VISTA Logic and Expression Ⅰ サブノート(三省堂)			
本科目の学習目標							
日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったりやりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。また、論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを必要に応じて活用しながら、適切に表現したり伝え合ったりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	使用教科書項目	単元(学習項目)	主な学習項目(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 1	自分のことを紹介しよう	自己紹介の会話文を聞きとり、必要な情報をメモに残す 学校内外の楽しいことを会話の中で英語で紹介する	○	○		定期考査
5	Lesson 2	興味のある歴史上の人物について発表しよう	歴史上の人物についての会話文を聞き取り、必要な情報をメモに残す 好きな歴史上の人物について理由と共に発表する	○		○	パフォーマンステスト
	Lesson 3	今していることを、SNSで送ろう	会話を聞いて、今やっていることと前日やっていたことを書きとる SNSの形式で、友人からのメッセージに返信する文を英語で書く	○		○	定期考査 パフォーマンステスト
6	Lesson 4	夏休みの予定を話してみよう	会話を聞いて、夏休みの予定について必要な情報をメモに残す 夏休みの予定を会話の中で伝え合う	○			定期考査
	Lesson 5	自分の経験したことを紹介しよう	会話を聞いて、どこで何を経験したかについて必要な情報をメモに残す これまでの中で面白い経験や珍しい経験について会話の中で伝える	○			定期考査
7	Lesson 6	メールを書いてみよう	会話を聞いて、完了したことや継続していることを書きとる 行ってみたい国と理由について、ALTの家族に宛てた手紙を書く		○	○	パフォーマンステスト
9	Lesson 7	比較クイズをやってみよう	日本とイギリスの比較に関する発話を聞き、表にまとめる スポーツや芸術等の優れた功績を比較級や最上級を用いて紹介する	○	○		定期考査
	Lesson 8	すぐれた発明品について、発表しよう	会話を聞いて、発明品によってできることを聞き取り、メモに残す 今買うべき商品について、聞き手を説得するような発表をする	○		○	パフォーマンステスト
10	Lesson 9	環境問題について、HPを作ろう	環境問題解決のためにすべきことを聞き取り、表にまとめる 身近な環境問題について、解決のためにすべきことを意見文にまとめる		○	○	パフォーマンステスト
	Lesson 10	様々な芸術作品について話そう	作品が生まれた場所や年を聞き取り、表にまとめる 好きな日本の作品と理由について、会話で相手に伝える	○	○		定期考査 定期考査
	Lesson 11	職業について発表しよう	なりたい職業と計画中のことを聞き取り、メモに残す 将来就きたい職業と自分の強みを関連付けて発表する			○	パフォーマンステスト
12	Lesson 12	世界遺産のHPを作ろう	世界遺産が作られた目的を聞き取り、メモに残す 行ってみたい名所と理由について、会話で相手に伝える	○			パフォーマンステスト 定期考査
1	Lesson 13	ピクトグラムについて、会話しよう	絵を見ながら人物の描写を聞きとり、誰のことかを指摘できる ピクトグラムや絵文字について、会話で相手に説明することができる	○	○		定期考査
2	Lesson 14	日本文化を海外へ発信しよう	外国人向けの日本文化の紹介文を聞き、何の文化かを指摘できる ツアーガイドとして、日本文化について分かりやすく伝える	○	○		定期考査
	Lesson 15	国際協力についての意見・感想を書こう	SDGsに関する意見文について、読み取ったことを表にまとめる SDGsに関して調査した内容をポスターにまとめ、発表する	○	○	○	パフォーマンステスト
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 9では、環境問題について扱う。身の回りで起きている環境問題について課題意識を持ち、自分が何ができるかを考え、英語で伝えることができる。			Lesson 15では、地球レベルの問題について考える。社会科や理科、福祉科や商業科と連携して、英語で伝えあう活動を通して国際的な視野を広げ、表現力を高める。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況の評価する。具体的には、授業内での取り組み、ワークブックや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査を通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
35	外国語	論理・表現Ⅱ	2	文理	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
VISTA Logic and Expression Ⅱ (三省堂)				VISTA Logic and Expression Ⅱ サブノート(三省堂)			
本科目の学習目標							
日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったりやりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。また、論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを必要に応じて活用しながら、適切に表現したり伝え合ったりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	使用教科書項目	単元(学習項目)	主な学習項目(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 1	Guess Who?	人物やキャラクターを英語で描写する	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
5	Lesson 2	Space Travel	宇宙で体験してみたいことのアイデアを英語で応募する	○	◎	○	
6	Lesson 3	Where is the post office?	英語で道案内をする	○	◎	○	
7	Lesson 4	Wonderful World	世界のおすすめスポットを紹介するポスターを英語で作成する	○	◎	○	
9	Lesson 5	Job Search	面接で自分を英語でアピールする	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
10	Lesson 6	New-type Robots!	「ロボットコンテスト」に英語で応募する	○	◎	○	
11	Lesson 7	Enjoy Japanese Foods	和食のレシピを英語で紹介する	○	◎	○	
12	Lesson 8	Looking for an Apartment	ルームメイト募集の広告を英語で書く	○	◎	○	
1	Lesson 9	Ideas from Nature	身近なバイオミクリーについて、英語でプレゼンテーションする	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
2	Lesson 10	Let's Learn about SDGs!	社会問題と解決策について、自分の考えを英語で紹介する	○	◎	○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 4 で世界のおすすめスポットを紹介するが、熱海や伊東でおすすめスポットを英語で紹介する。より効果的にアピールするために何が必要かを考える。			Lesson 7 で和食のレシピを紹介するが、家庭科の授業と協働して、和食のメリットを健康面から考え、外国の方へ和食文化をSNを通して英語で発信する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況を評価する。具体的には、授業内での取り組み、ワークブックや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査を通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
36	外国語	ビジネス英会話	1	ビジネス観光	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
Metro student book & workbook Starter(OXFORD)							
本科目の学習目標							
日常的な話題(熱海への観光客を意識したやりとり)について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり必要な情報を得たりすることができる。また、論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを必要に応じて活用しながら、適切に表現したり伝え合ったりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 1	Back to school!	Talking about school life Writing an online profile	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
5	Lesson 2	Global talent	Talking about photos A description of a family	○	◎	○	
6 7	Lesson 3	My hangouts	Talking about position A description of a dream hangout predicting topics from headings	○	◎	○	
9	Lesson 4	This is fun!	Talking about abilities Introducing Atami to tourists	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
10	Lesson 5	Faborite things	Asking for things in a store Conversation in a restaurant	○	◎	○	
11	Lesson 6	Your day	Talking about a faborite day A description of a perfect day in Atami	○	◎	○	
12	Lesson 7	Be good!	Routines and habits				定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
1 2	Lesson 8	My style	Describing people Showing doirections	○	◎	○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
Lesson 3の単元で、「どこに何があるか」英語で表現することを学ぶ。学んだ英語表現を使用して、熱海への観光客に対して、おすすめスポットを考え効果的に英語で紹介する。			Lesson 7の単元で、食生活について発表する機会があるが、家庭科と協働して、良い食生活の例を提示し、英語で発表することによって、今後の食生活の見直しを図る。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況を評価する。具体的には、授業内での取り組み、ワークブックや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査、リフレクションシートを通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
37	外国語	スピーチ	2	文理(文系)	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
Metro student book & workbook Starter(OXFORD)							
本科目の学習目標							
日常的な話題(熱海への観光客を意識したやりとり)について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり必要な情報を得たりすることができる。また、論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを必要に応じて活用しながら、適切に表現したり伝え合ったりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	Lesson 1	Back to school!	Talking about school life Writing an online profile	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
5	Lesson 2	Global talent	Talking about photos A description of a family	○	◎	○	
6	Lesson 3	My hangouts	Talking about position A description of a dream hangout	○	◎	○	
7			predicting topics from headings				
9	Lesson 4	This is fun!	Talking about abilities Introducing Atami to tourists	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
10	Lesson 5	Faborite things	Asking for things in a store Conversation in a restaurant	○	◎	○	
11	Lesson 6	Your day	Talking about a faborite day A description of a perfect day in Atami	○	◎	○	
12	Lesson 7	Be good!	Routines and habits				
1	Lesson 8	My style	Describing people Showing doirections	○	◎	○	定期考査 パフォーマンステスト リフレクションシート
2							
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
Lesson 3の単元で、「どこに何があるか」英語で表現することを学ぶ。学んだ英語表現を使用して、熱海への観光客に対して、おすすめスポットを考え効果的に英語で紹介する。				Lesson 7の単元で、食生活について発表する機会があるが、家庭科と協働して、良い食生活の例を提示し、英語で発表することによって、今後の食生活の見直しを図る。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を多面的に評価する。また、英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)の習得状況を評価する。具体的には、授業内での取り組み、ワークブックや学習プリント等課題提出の内容、各レッスンで行うパフォーマンステスト、定期考査、リフレクションシートを通して、総合的に判断する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
38-1	家庭	家庭総合	2	共通	1	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
家庭総合(実教出版)				家庭総合学習ノート(実教出版) 生活学Navi 2025(実教出版)			
本科目の学習目標							
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。						
②思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	学習内容	学習活動	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	第1章 これからの人生について考えてみよう。 ・自分の未来予想図を描こう。 ・これからの人生をデザインする。	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自己を分析する。 ・社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。	・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できる。 ・人生設計に必要な要素やこれからの社会について考えることができる。	○	○	○	確認テスト WSの記述 WS内の振り返り
5	第2章 自分らしい生き方と家族 ・自立と共生 ・共に生きる家族 ・家族に関する法律	・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・家族の条件とは何か、ライフイベントについて考える。 ・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。	・自立の種類とそれぞれの具体的内容を把握、青年期をどのように生きるかを考えられる。 ・結婚、家族、家庭の意義や機能について理解し、家族の抱える問題などを理解する。 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。	○	○	○	WSの記述 WSの記述 定期テスト
6	第4章 高齢者とかかわる ・高齢社会に生きる ・高齢者を知る ・高齢者の自立を支える ・高齢社会を支える仕組み	・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。 ・これまでの高齢者とかかわりを振り返り、高齢者についてのイメージをまとめる。 ・要介護の高齢者との接し方を考えたり、高齢者施設での利用者の過ごし方についてまとめる。 ・介護をめぐる課題と解決策をまとめる。	・高齢者、高齢社会への理解を社会背景とともに理解する。 ・高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。 ・要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解し、日常生活を手助けできる介助の技術を身に付ける。 ・介護保険制度について理解し、介護をめぐる課題についてまとめ、解決策を考えることができる。	○	○	○	WSの記述 WSの記述 定期テスト WSの記述、振り返り
9	第5章 社会とかかわる ・支えあって生きる ・共生社会を生きる	・人の一生と社会福祉とかかわりをイメージすることで、「福祉」の意味について考える。 ・社会保障制度の仕組みを踏まえて将来に向けての課題を考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・自身の人生設計や社会背景を考え、将来に起こりうる課題について考えることができる。 ・支え合う社会の大切さやボランティア活動の意義を理解し、実際の活動につなげる。	○	○	○	確認テスト WSの記述 WSの記述、振り返り
10	第6章 食生活をつくる ・人と食物のかかわり ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・これからの食生活を考える	・気候風土や宗教による食生活の違いや世界の食について調べ、その多様性を学ぶ。 ・食事調査を通して各自の食生活の問題点に気づく。 ・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・食品調理上の特性を知る。 ・食品衛生(食品の選択・食中毒・食品添加物)について学ぶ。 ・食品の自給率や食に関する環境問題について考え、環境に配慮した食生活について自分の考えをまとめる。	・世界の食事が気候や宗教等に関連していることに気づき、和食の特徴を理解する。 ・自身の食生活の現状を把握し、改善案を考えることができる。 ・栄養素の種類と働きや栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身に付けている。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握できる。 ・食中毒に対する予防法を理解する。 ・日本の食料自給率の現状を理解し、環境に配慮しながら日本の食料事情を解決するためにできることをみつけることができる。	○	○	○	WSの記述 WSの記述 定期テスト WSの記述、振り返り
11				○	○	○	
12				○	○	○	
1	第10章 経済的に自立する ・暮らしと経済 ・将来のライフプランニング	・生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 ・収入と支出の項目について学び、適切な家計管理を考える。	・家庭経済と国内・国際経済の関係性に気づく。 ・家庭の収入や支出、予算を考えた計画の必要性について理解する。	○	○	○	定期テスト
2				○	○	○	
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
自らの人生設計を描き、ライフイベントでかかる費用を想定する。 高齢者が暮らしやすい生活の工夫を考える。 ホームプロジェクトで生活がより良くなる工夫を考える。				福祉科と連携して高齢者の身体的特徴を疑似体験させる。 妊娠と出産について、保健の授業と関連させる。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心をもち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期試験、提出作品等による知識・技能の習得状況や、提出プリントによる思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
38-2	家庭	家庭総合	2	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
家庭総合(実教出版)				家庭総合学習ノート(実教出版) 生活学Navi 2024(実教出版)			
本科目の学習目標							
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。						
②思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	学習内容	学習活動	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	第3章 子どもと関わる 1節 子どもとは 2節 子どもの発達	・子どもの感じ方についての例を出し合う。 ・子どもの発達について考える。	・青年期の健康を学び、次世代を担う子どもを育てるとともに、育みの責任感を身に付ける。 ・子どもの発達が考えられるとともにからだの成長の様子を理解する。			○	・グループワーク ・学習ノートの記述
5	3節 子どもの生活	・絵本作りや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。	・子どものころを振り返り、基本的な生活習慣や社会的な生活習慣の身に付き方を理解する。 ・子どもの生活について学び、子どもと関わる方法を身に付ける。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・学習ノートの記述 ・定期テスト ・プリントの点検
6	4節 子どもをはぐくむ	・現代の親子に関わる課題と解決の方向性を探る。	・現代の親子にかかわる課題を発見し、解決の方法を考える。	○	○		・学習ノートの記述 ・定期テスト
7	5節 子どものための社会福祉	・世界の子どもの未来に向けての課題解決の方法を考える。	・子育てに関する社会的な課題と支援の内容を理解する。	○	○		・学習ノートの記述 ・定期テスト
9	第7章 衣生活を作る 1節 人と衣服の関わり 2節 衣服の素材の種類と特徴	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服が持つ機能や安全性について考える。 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。	・衣服の着用の意義・目的、機能や安全性を理解する。 ・快適な衣生活を送るためのポイントを理解する。 ・衣服素材の種類や特徴、性質を理解する。 ・用途に応じた素材を選択する力を身に付ける。			○	・レポート作成
10	3節 衣服の選択と管理まで 4節 持続可能な衣生活をつくる	・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・環境に配慮した衣生活について、世界の動向を学び、自分たちができることを考える。	・衣服の表示の種類と目的を理解する。 ・衣服の種類に応じた洗濯、管理の方法を身に付ける。 ・身の回りの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているか理解する。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・学習ノートの記述 ・定期テスト
11	5節 私たちがつなぐ衣生活の文化 6節 衣服を作る基礎を学ぶ	・日本の和服がどのように継承していくか考える。 ・ブックカバー作成、針山を作る。	・日本の伝統的な衣類の特徴を理解する。 ・伝統的な衣類を継承する方法を考える。 ・基本的な縫製技術を身に付ける。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・作品 ・学習ノートの記述 ・定期テスト
12	第8章 住生活を作る 1節 人間と住まい 2節 住まいの文化	・気候風土と住まいの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。 ・和風木造住宅の空間的な特性や工夫をまとめる。	・住まいの機能と人間生活とのかかわりを理解する。 ・日本の伝統的な住居の工夫を理解する。 ・日本の住まいや生活様式の変化を理解する。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・学習ノートの記述 ・定期テスト
1	3節 住まいを計画する 4節 健康に配慮した快適な室内環境	・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。 ・快適な室内環境について、日照、採光、通風、換気、騒音などの要素を学ぶ。	・平面計画の個性を理解する。 ・人に合わせた住環境を考える。 ・健康的な室内環境を作るポイントを理解する。 ・安全で長く住むための住居の管理方法を理解する。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・学習ノートの記述 ・定期テスト
2	5節 安全な住まい 6節 持続可能な住まいづくり	・災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 ・住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。	・家庭内事故や災害について学び、安全な住まい環境を理解する。 ・日本の住宅政策の目的を理解する。 ・自分の住んでいる地域の課題を発見し、解決のための姿勢を身に付ける。	○	○	○	・学習ノートの記述 ・定期テスト ・学習ノートの記述 ・定期テスト ・レポートの作成
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
・現代の子育ての課題を発見し、解決の方法を考える。 ・日本の伝統的ないるの継承方法を考える。 ・個性に応じた住環境を考える。				・「保健」の授業と連携し、乳幼児期・思春期・成人期の体の発達の違いを理解する。			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期テストや学習ノートの記述の点検、授業で作成した作品等による知識・技能の習得状況や思考・判断・表現について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
39	情報	情報Ⅰ	2	共通	2	必修	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
最新情報Ⅰ(実教出版)				最新情報Ⅰ学習ノート新課程版(実教出版)、令和7年度版日本語ワープロ検定試験模擬問題集3・4級編(日本情報処理検定協会)			
本科目の学習目標							
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身に付ける。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		問題の発見・解決等の方法や、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能が身に付いている。					
②思考・判断・表現		複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力が身に付いている。					
③主体的に学習に取り組む態度		情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度が身に付いている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	情報社会の問題解決	第1章 情報社会と私たち	・情報やメディアの特性を踏まえ、情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 ・情報に関する制度等の意義や、情報社会において個人の果たす役割や責任などについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する。	○		○	課題 レポート 実習 期末試験
5					○	○	
6		コミュニケーションと情報デザ	第2章 メディアとデザイン	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴や、情報デザインが人や社会に果たしている役割について理解する。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現する。	○		
7					○	○	
9	情報通信ネットワークとデータの活用	第3章 システムとデジタル化	・データを蓄積、管理、提供する方法や、情報システムがサービスを 提供する仕組みと特徴について理解する。 ・情報システムが提供するサービスの効果的な方法について 考える。	○		○	課題 レポート 実習 期末試験
10					○	○	
11		第4章 ネットワークと セキュリティ	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、及び情報セキュリティを 確保する方法や技術について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法について考える。	○		○	
12						○	
1	情報社会の問題解決	第5章 問題解決とその方法	・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を 発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決 する方法について考える。	○		○	課題 レポート 実習 学年末試験
2	コンピュータとプログラミング	第6章 アルゴリズムと プログラミング	・コンピュータでの情報の内部表現について理解する。 ・目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより適切な 方法で表現できる。	○		○	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
「問題解決とその方法」において、問題の発見から解決案の実施と評価までの一連の流れを学ぶ。			情報活用の実践力(商業・総合探究) 情報の科学的な理解(理科・数学) 情報社会に参画する態度(公民)				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に主体的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
パソコン室使用における注意事項を厳守する。授業における必要なものは適宜指定する。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別			
40	キャリアアップ	キャリアアップ	2	共通	1	必修			
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等					
キャリアアップ(自校作)									
本科目の学習目標									
義務教育段階における国語・数学・英語の学習内容の学び直しを行い定着を図るとともに、併せて一般常識も養う。また、主体的に学習する意欲や関心を育てる。									
評価の観点(規準)とその趣旨									
①知識・技能		義務教育段階における国語・数学・英語の基礎学力を、その背景にある事象などを理解し、高等学校の学習に結びつけることができる。							
②思考・判断・表現		事象を考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなど、見方や考え方を身に付けている。							
③主体的に学習に取り組む態度		学習における躓きを、自らが主体的に見つけ、積極的に質問するなど、解決しようと取り組む。							
学習計画及評価方法等									
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点 ①②③			評価方法		
4	義務教育段階の学び直し 国語 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 5 (1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 6 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 数学 7 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 英語 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	自学自習 国語 漢字の読み書き、歴史的仮名遣い、指示語、接続詞、古文、熟語、誤字訂正、文章読解、同音異字など 数学 四則演算、小数・分数、1次方程式、因数分解、2次方程式、合同、3平方の定理、1次不等式、三角比、確率など 英語 アルファベット、基本英単語、一般動詞、be動詞、否定文、疑問詞、動詞の過去形、過去形の否定文、過去形の疑問文、日常会話、助動詞、進行形、受け身、関係代名詞、分詞、英会話など	○	○	○	1 生徒一人ひとりの実態に合わせた、個別のプリント学習を行う。 2 国語及び数学においては小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領、英語においては中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領に則した内容とする。 【評価方法等】 1 評定は行わない。指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に所見を記入する。ただし、通知表にはABCの3段階で評価を記入する。 2 授業者は観察をしっかりと行い、評価の参考とする。プリントはファイルし定期的にチェックする。 3 特定の分野の学習に偏ることのないよう、時限ごとに指定された分野のプリントを学習する。 【知識・技能】 【思考・判断・表現】 毎回の提出時に対面により身につけているかを確認する (プリント) 【主体的に学習に取り組む態度】 分からないところや間違ったところを積極的に質問し、解決しようと取り組んでいるか。			
9			○	○	○				
10									
11									
12									
1			○	○	○				
2									
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面					
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)									
各教科・項目ごとの確認テスト、自己評価・自己反省、学期ごとの目標到達具合により評価									
科目履修・選択上の留意事項									
分からなくなってしまった項目に気付き理解することが大切であるため、積極的に取り組むこと									

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
41	商業	ビジネス基礎	2	ビジネス観光	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
ビジネス基礎(実教出版)				ビジネス基礎準拠問題集(実教出版)			
本科目の学習目標							
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のとおりで育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。						
②思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決ことについて考えている。						
③主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組みようとしている。						
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ①②③			評価方法
4 5 6 7	第1章商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス 第2章ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用 第3章経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	商業の学習とビジネス ア商業を学ぶ重要性と学び方 イビジネスの役割 ウビジネスの動向・課題 ビジネスに対する心構え ア信頼関係の構築 イコミュニケーションの基礎 ウ情報の入手と活用 経済と流通 ア経済の基本概念 イ流通の役割	商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解します。 ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学びます。 実践する力、職業人として必要な豊かな人間性、他者と協働する力を身に付けます。 ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を学びます。 ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付けます。 企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行います。 経済の仕組みと流通の必要性について理解します。 経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考えます。 流通を支える組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解している。 ・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。 ・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 ・情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・経済と流通について、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	
9 10 11 12	第4章さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業 第5章企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用 第6章ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済	経済と流通 ウ流通を支える活動 企業活動 ア企業活動の形態と組織 イマーケティングの重要性と流れ ウ資金調達 エ財務諸表の役割 オ企業活動に対する税 カ雇用 取引とビジネス計算 ア売買取引と代金決済	ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学びます。 流通や流通に関わるビジネスに関する知識を基盤として、流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。 流通と流通に関わる組織の一員としての役割を果たすための力を身に付けます。 企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に必要な知識を学びます。 企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考えます。 企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学びます。 取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考えます。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・経済と流通について、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 テスト、ワークシート・レポート、観察シート、議事録、	
1 2	第7章ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 第8章身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	取引とビジネス計算 イビジネス計算の方法 身近な地域のビジネス ア身近な地域の課題 イ身近な地域のビジネスの動向	ビジネス計算に関する知識や技術を学びます。 ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学びます。 さまざまな地域のビジネスに関する知識などを基に、身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。 ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 テスト、ワークシート・レポート、観察シート、議事録、	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
第4章さまざまなビジネスとして、多種多様な業種を取り上げる。この時、学習した業種の実在する企業を取り上げ、どのようなビジネスモデルを展開しているかを調べる活動ができる。			第2章ビジネスとコミュニケーションの場面で、電話応対について扱う部分がある。この時、国語科と協力して正しい敬語を用いた電話応対を学習することができる。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
(知識・理解)テスト(思考・判断・表現)ワークシート・レポート (主体的に学習に取り組む態度)観察シート、議事録、ワークシート 観点別に評価し、評定はこれを総括する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
43	商業	マーケティング	2	ビジネス観光	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
マーケティング(実教出版)				マーケティング準拠問題集(実教出版)			
本科目の学習目標							
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	(1) 現代市場とマーケティング ア 市場環境の変化 イ マーケティングの発展 ウ マーケティングの流れ エ 消費者行動 (2) 市場調査 ア 市場調査の目的と方法 イ 情報の分析	Introduction 第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント 第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因 第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法 第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング 実習 もしあなたがSTPを決めることになったら	マーケティングを学ぶ意義を理解する。 現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ。 現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深める。 マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。 マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ。 消費者の心理や購買意思決定までの過程、消費者行動に影響を与える要因について理解する。 消費者行動について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 市場調査について理解し、関連する技術を学ぶ。 市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づく調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。 市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に積極的に取り組む。 実習に積極的に取り組む。 STP分析を理解し、関連する技術を学ぶ。 STP分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 実習に積極的に取り組む。	○	○	○	(知識・技術) 定期考査、確認テスト (思考・判断・表現) ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート
9 10 11 12	(3) 製品政策 ア 製品政策の概要 イ 製品企画と生産計画 ウ 販売計画と販売予測 エ 製品政策の動向 (4) 価格政策 ア 価格政策の概要 イ 価格の種類と決定の方法 ウ 価格政策の動向 (5) チャネル政策 ア チャネル政策の概要 イ チャネルの種類と特徴 ウ チャネル政策の動向 (6) プロモーション政策の動向 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの方法	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向 第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向 第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向 第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	製品政策について企業における事例と関連付けて理解する。製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善する。製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組む。 価格政策について企業における事例と関連付けて理解する。価格に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善する。価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組む。 チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解する。チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善する。チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組む。 プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。	○	○	○	(知識・技術) 定期考査、確認テスト (思考・判断・表現) ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート
1 2	ウ プロモーション政策の動向 (1) 現代市場とマーケティング	(1) 現代市場とマーケティング 第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。プロモーション政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。 プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。 マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解する。 マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○	(知識・技術) 定期考査、確認テスト (思考・判断・表現) ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
実習課題を与え取り組ませる ①もしあなたが市場調査をすることになったら ②もしあなたが高校紹介のポスター制作のコピー担当になったら ③もしあなたがPOP広告制作の担当になったら			数学的視点で、市場調査を統計的に分析させる。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
(知識・技術)定期考査、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート 観点別に評価し、評定はこれを総括する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
44-1	商業	観光ビジネス	2	ビジネス観光	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
観光ビジネス(実教出版)				観光ビジネス準拠問題集(実教出版)			
本科目の学習目標							
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能	観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
②思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
③主体的に学習に取り組む態度	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	観光ビジネスの概要 観光ビジネスの 主な産業	第1章 観光ビジネスの概要 1. 観光ビジネスの担い手と特徴 2. 観光ビジネスの動向 3. 日本の観光政策 4. 観光ビジネスと地域 第2章 観光ビジネスの 主な産業 1. 旅行業 2. 宿泊業	観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	○ ○	○ ○	(知識・技術)定期考査、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート	
9 10 11 12	観光ビジネスのマーケティング 観光資源の発見と活用	1. 観光ビジネスの顧客 2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの意義 3. 観光ビジネスのマーケティング戦略 1. 観光資源とは何か 2. 観光資源の保護と保全	観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。	○ ○	○ ○	(知識・技術)定期考査、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート	
1 2	地方自治体の観光政策 観光ビジネスと観光まちづくり	1. 地方自治体の観光政策の概要 2. 地方自治体の観光政策の実施内容 1. 観光まちづくりとは何か 2. 観光まちづくりと地域の活性化のプロセス	地方自治体の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光政策を立案して実施し、評価・改善する。 地方自治体の観光政策について自ら学び、観光による地方創生や地域の活性化などを踏まえ、持続可能な観光政策に主体的かつ協働的に取り組む。 観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。	○ ○	○ ○	(知識・技術)定期考査、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
地域活性化に向け、全世界の観光資源と地域の観光資源を比較し、自ら課題を設定し、解決するための提案を行う。			インバウンドに対応するため、英語科との連携が可能。 観光資源を探究するにあたり、地歴公民科との連携が可能。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) (知識・理解)定期考査、確認テスト。(思考・判断・表現)ワークシート、レポート。(主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート。観点別に評価し、評定はこれを総括する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
44-2	商業	観光ビジネス	2	ビジネス観光	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
観光ビジネス(東京法令出版)							
本科目の学習目標							
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現		観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7	(1)観光とビジネス ア 観光ビジネスの特徴 イ 観光ビジネスの動向	第1章 観光とビジネス 第1節 観光とビジネス 第2節 観光ビジネスの動向	観光ビジネスを学ぶ意義を理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 観光資源と観光政策について学ぶ。 観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光資源と観光政策について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	(知識・技術)定期 考查、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、 レポート (主体的に学習に取り組む態度)実 習日誌、議事録、 ワークシート
9 10 11 12	(2)観光資源と観光政策 ア 国内の観光資源 イ 観光資源の保護と保全 ウ 観光政策の動向	第2章 観光資源 第1節 観光資源の分類 第2節 国内の観光資源 第3節 観光資源の魅力を高める方策 第4節 観光資源の保護と保全 第3章 観光政策 第1節 観光政策の動向 第2節 観光振興の組織 章末問題	観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 地方自治体の観光政策について学ぶ。 地方自治体の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光政策を立案して実施し、評価・改善する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	(知識・技術)定期 考查、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、 レポート (主体的に学習に取り組む態度)実 習日誌、議事録、 ワークシート
1 2	(3)観光ビジネスとマーケティング ア 観光ビジネスの主体 イ マーケティングの特徴 ウ 顧客の理解 エ 顧客サービス (4)観光ビジネスの展開と効果 ア 観光振興とまちづくりとの関係	第4章 観光ビジネスとマーケティング 第1節 観光ビジネスの主体 第2節 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴 第3節 顧客の理解 第4節 顧客サービス 第5章 観光ビジネスの展開と効果	地方自治体の観光政策について自ら学び、観光による地方創生や地域の活性化などを踏まえ、持続可能な観光政策に主体的かつ協働的に取り組む。 観光による地域の活性化について学ぶ。 観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	○ ○	○ ○	○ ○	(知識・技術)定期 考查、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、 レポート (主体的に学習に取り組む態度)実 習日誌、議事録、 ワークシート
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
地域活性化に向け、全世界の観光資源と地域の観光資源を比較し、自ら課題を設定し、解決するための提案を行う。			インバウンドに対応するため、英語科との連携が可能。 観光資源を探究するにあたり、地歴公民科との連携が可能。				
評価の方法(定期考查・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
(知識・理解)定期考查、確認テスト (思考・判断・表現)ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度)実習日誌、議事録、ワークシート 観点別に評価し、評定はこれを総括する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科科目	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
47	商業	ソフトウェア活用	4	ビジネス観光	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
ソフトウェア活用(実教出版)				なし			
本科目の学習目標							
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。					
③主体的に学習に取り組む態度		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。					
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	①	②	③	評価方法
4	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェア活用	1.企業活動とソフトウェア活用 (1)ビジネスにおけるソフトウェア活用 (2)ビジネスにおけるソフトウェア進化	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。	○	○	○	課題 中間試験
5	2節 ビジネスにおけるソフトウェア進化 2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入	2.情報通信ネットワークの活用 (1)情報通信ネットワークの導入と運用 (2)情報資産の保護 3.表計算ソフトウェアの活用 (1)ソフトウェアを用いた情報の集計と分析					
5	2節 情報資産の保護 3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	2.オペレーションズ・リサーチ 3.手続きの自動化					期末試験
7	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 3節 手続きの自動化						
9	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化	4.データベースソフトウェアの活用 (1)ビジネスとデータベース (2)データベースの作成と操作 (3)手続きの自動化 (4)データベースの構造 (5)SQLの操作	・データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 ・データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。 ・ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。 ・データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し、必要に応じた表の正規化ができる知識や思考が身に付いている。 ・SQLの演習について自発的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。 ・グループウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができた。	○	○	○	課題 中間試験
10	4節 データベースの構造 5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用	(1)グループウェアの活用 (2)販売管理ソフトウェアの活用 (3)給与計算ソフトウェアの活用					
11	2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用						期末試験
12							
1	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎	6.情報システムの開発 (1)システム開発の基礎 (2)アルゴリズムの基礎 (3)情報システムの開発演習	・一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができる。表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができる。 ・アルゴリズムを表現するための流れ図について、問題解決のためにその技術を利用することができる。アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的にアルゴリズムを表現することができる。 ・企業活動が抱える課題を現状分析し、表計算ソフトウェア、あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携処理を理解し、情報システムに組み込む技術を身に付けているか。	○	○	○	発表 学年末試験
2	2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発演習						
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
表計算ソフトの演習時、与えられたデータをどのように処理していくかをグループワークで考えさせ、作成・発表させる。				体育科や進路課から実データ入手し、これまで身に付けた情報処理スキルを検証する。			
各種小テスト、単元テスト、定期テスト、授業への取り組み、課題レポート、授業中の発言、ワークシート等を総合的に評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							
パソコン室使用における注意事項を厳守する。授業における必要なものは適宜指定する。 情報処理技能検定表計算1級受験料として、3,300円が必要となる。							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
48	福祉	社会福祉基礎	3	福祉	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
社会福祉基礎(実教出版)							
本科目の学習目標							
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して社会福祉の向上に必要な資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
4	(1)社会福祉の理念と意義	ア 生活と福祉	・家庭生活の機能や概要、人間の生活と社会とのかわり及び少子高齢化の進行と介護の社会化との関連について理解する。	◎	○	◎	課題
5		イ 社会福祉の理念	・社会福祉の在り方や理念を理解する。	◎	○	◎	1学期考查
		ウ 人間の尊厳と自立	・人間の尊厳と利用者自身の意思決定を尊重した自立支援の必要性を理解する。	◎	○	○	1学期考查
6	(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望	ア 外国における社会福祉	・英国、米国、北欧諸国やアジア諸国の社会福祉を理解する。	◎	○	○	1学期考查
7		イ 日本における社会福祉	・日本の社会福祉の歴史的な展開を理解する。	◎	○	○	1学期考查
9	(4)生活を支える社会保障制度	ア 社会保障制度の意義と役割	・各制度が生まれてきた社会的背景、理念、社会福祉サービスの概要と現状を理解する。	◎	○	◎	2学期考查
10		イ 生活支援のための公的扶助	・生活保護の原則、保護の種類など生活保護制度について理解する。	◎	○	○	2学期考查
11		ウ 児童家庭福祉と社会福祉サービス	・児童及び家庭を支える社会福祉サービスの概要と現状を理解する。	◎	○	○	2学期考查
12		エ 高齢者福祉と介護保険制度	・高齢者を支える社会福祉サービスの概要と現状を理解するとともに、関連する福祉課題の解決方法を考える。	◎	◎	○	課題
1	(2)人間関係とコミュニケーション	オ 障害者福祉と障害者総合支援制度	・障害者を支える社会福祉サービスの概要と現状を理解するとともに、関連する福祉課題の解決方法を考える。	◎	◎	○	課題
		カ 介護実践に関する諸制度	・介護実践に関連する諸制度を、社会福祉施策と関連付けてその基本的な仕組みを理解する。	◎	○	◎	3学期考查
		ア 人間関係の形成	・人間の理解や人間関係を構築するために必要な考えを理解する。	◎	○	○	3学期考查
		イ コミュニケーションの基礎	・人間の理解や人間関係を構築するために必要な	◎	○	○	3学期考查
		ウ 社会福祉援助活動の概要	・社会福祉援助活動の意義や役割を理解し、それに関連する知識・技術を身に付ける。	◎	○	○	3学期考查
2	(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望	ウ 地域福祉の進展	・地域福祉の意義や役割を理解するとともに、地域にある福祉課題を発見し、解決の方法を考える。	◎	◎	○	課題
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
地域にある福祉課題を発見し、どのように解決をすることができるのかを考える。			「家庭総合」で学んだ高齢者分野を活かし、家族の視点と介護の専門職の視点の違いを学ばせたい。				
評価の方法(定期考查・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
・学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考查、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
49	福祉	介護福祉基礎	2	福祉	2	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
介護福祉基礎(実教出版)							
本科目の学習目標							
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	(1)介護の意義と役割	ア 尊厳を支える介護	・介護の意義や目的、役割について理解する。	◎	○	◎	課題
		イ 自立に向けた支援	・自立の概念と自立を支える介護の意義や役割について理解する。	◎	○	○	1学期考查
5	(2)介護福祉の担い手	ア 介護を取り巻く状況	・介護を取り巻く社会的状況の変化について理解する。	◎	○	○	1学期考查
6		イ 介護従事者の役割と介護福祉士	・介護従事者の果たすべき役割と機能について理解するとともに、自己の目指す介護従事者の姿を考える。	◎	◎	○	課題
		ウ 介護従事者の倫理	・介護従事者として必要な倫理について理解する。	◎	○	○	1学期考查
7		エ 介護実践における連携	・多職種連携の必要性や意義について理解する。	◎	○	○	1学期考查
9	(3) 介護を必要とする人の理解と介護	ア 介護を必要とする人と生活環境	・介護を必要とする人と家族や地域など生活環境について考える。	◎	○	◎	課題
		イ 高齢者の生活と介護	・高齢者の生活に関する課題やニーズ、高齢者介護の在り方について理解する。	◎	○	○	2学期考查
10		ウ 障害者の生活と介護	・障害者の生活に関する課題やニーズ、障害者支援の在り方について理解する。	◎	○	○	2学期考查
11		エ 介護福祉サービスの概要	・介護福祉サービスの具体的な内容や利用方法について理解するとともに、介護福祉サービスの抱えている諸課題を発見し、解決の方法を考える。	◎	◎	○	課題・2学期考查
12	(4)介護における安全確保と危機管理	ア 介護における安全と事故対策	・安全確保と事故防止には観察が重要であることを理解する。	◎	○	◎	課題
1		イ 介護従事者の健康管理	・介護従事者の健康管理について理解するとともに、自己の健康管理の状態を振り返る。	◎	◎	◎	課題・3学期考查
		ウ 感染対策	・感染予防の意義と必要性について理解する。また、感染対策に対する基本的な考えを理解する。	◎	○	◎	3学期考查
2		エ 福祉用具と介護ロボット	・福祉用具の活用事例と、介護ロボットによる介護の形の変化を理解する。	◎	○	○	3学期考查
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・望ましい介護従事者の姿を理解し、自己がそのようになるために必要な方法を考える。 ・介護福祉サービスの諸課題を発見し、解決方法を考える。			「保健」の授業と連携し、感染対策の重要性を実感させる。				
評価の方法(定期考查・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考查、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
50	福祉	コミュニケーション技術	3	福祉	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
コミュニケーション技術(実教出版)							
本科目の学習目標							
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して対人援助や福祉実践の場での人間関係の構築に必要な資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5	(1)福祉実践におけるコミュニケーション	ア コミュニケーションの意義と役割	サービス利用者の自己表現としてのコミュニケーションについて理解する。また、利用者との信頼関係や人間関係構築に向けて必要とされるコミュニケーションを理解する。	◎	○	○	1学期考査
6 7		イ コミュニケーションの基本技術	事例や演習を通してコミュニケーションの基本技術を理解する。また非言語的コミュニケーションに留意して支援することができる。	◎	○	○	1学期考査
9 10 11		ア サービス利用者に応じたコミュニケーション	障害の状況と個性に配慮したコミュニケーションを理解する。	◎	○	○	2学期考査
	手話や点字を中心にコミュニケーション技法を理解する。		○	◎	◎	課題	
12	(3)福祉実践におけるチームのコミュニケーション	イ サービス利用者や家族との関係づくり	利用者とその家族との関係づくりや支援の方法について、理解する。	◎	○	○	2学期考査
1		ア 記録による情報の共有化	多職種との連携におけるコミュニケーション方法を理解するとともに、チームとしての情報の共有化の意義などを理解する。 福祉実践の場における記録の意義や目的、管理方法などについて理解する。	◎	○	○	3学期考査 3学期考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
障害がある方の状態に応じて適切な方法で自己紹介をする。			教科「商業」と連携し、様々な障害がある方に向けて、熱海や本校の紹介をする方法を考え、実践する。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別		
51-1	福祉	生活支援技術	2	福祉	2	必修選択		
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等				
生活支援技術(実教出版)								
本科目の学習目標								
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成する。								
評価の観点(規準)とその趣旨								
①知識・技能		自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。						
②思考・判断・表現		自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。						
学習計画及評価方法等								
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法	
				①	②	③		
4	(1) 生活支援の理解	ア 生活の理解	生活の構成要素や生活活動の種類、生活空間、生活時間などの生活の個性性と多様性を理解する。	◎	○	○	課題	
		イ 生活支援の考え方	利用者の個性性や多様性に応じた生活支援の方法などの介護従事者の基本的な考えを理解する。	◎	○	○	1学期考查	
5		ウ 他の職種の役割と協働	より良い介護サービスを提供するために多職種の役割や連携が必要であることを理解する。	◎	○	○	1学期考查	
6	(2) 自立に向けた生活支援	ア 介護技術の基本	サービス利用者に応じた基本的な支援方法を理解するとともに関連する技術を身に付ける。	◎	◎	○	実習・1学期考查	
7		イ 居住環境の整備	利用者のライフスタイルや価値観を尊重した支援方法を理解する。	◎	○	○	1学期考查	
9		(2) 自立に向けた生活支援	ケ 睡眠・休養の支援	安全・安楽な睡眠・休養の支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・2学期考查
10		エ 移動の支援	安全・安楽な移動の支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・2学期考查	
11		オ 食事の支援	安全・安楽な食事の支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・2学期考查	
12		ク 家事行動の支援	洗濯や掃除などの家事に関する支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・2学期考查	
1 2	(2) 自立に向けた生活支援	ウ 身じたくの支援	安全・安楽な身じたくの支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・3学期考查	
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面					
自立に向けた生活支援技術の単元で、事例を用いて利用者の身体状況に合った介護技術(支援方法)の検討を行う。			「家庭総合」で学んだ衣食住の知識を活かして、支援者として家事能力の向上が求められていることを実感させる。					
評価の方法(定期考查・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)								
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考查、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。								
科目履修・選択上の留意事項								

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
51-2	福祉	生活支援技術	4	福祉	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
生活支援技術(実教出版)							
本科目の学習目標							
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	(2) 自立に向けた生活支援	2年次の振り返り	2年次に行った実習内容を振り返るとともに、利用者の状況に応じて適切な介護を実践できる。	◎	◎	○	実習・1学期考査
5		カ 入浴・清潔保持の支援	安全・安楽な入浴・清潔保持の支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・1学期考査
6 7		キ 排泄の支援	安全・安楽な排泄の支援方法を理解し、実践する力を身に付ける。	◎	◎	○	実習・1学期考査
9 10		コ レクリエーションの支援	利用者の生活を活性化させ、生きる力を引き出すレクリエーションを考え、実践できる。	◎	◎	○	実習・2学期考査
11	(4) 終末期の支援		サービス利用者の尊厳を守り、最期までその人らしく生活するための方法を理解する。	◎	○	○	2学期考査
12	(5) 医療的ケア	ア 医療的ケアの理解	医療的ケアの概要と介護従事者の役割を理解する。	◎	○	○	2学期考査
1	(3) 緊急時・災害時の支援		緊急時・災害時の介護従事者の役割を理解するとともに、実際の場面を想定して、支援の方法を考える。	◎	◎	○	課題・3学期考査
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・利用者のアセスメントシートから適切な介助方法を考え、実践する。 ・自分で利用者のアセスメントシートを作成する。 ・緊急時・災害時の適切な行動を考える。			「理科」の授業と連携し、緊急時の介護について場所や避難する対象者によって避難方法が異なることを学ばせたい。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
52	福祉	介護総合演習	2	福祉	3	必修選択	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
本科目の学習目標							
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成する。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
②思考・判断・表現		自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
学習計画及評価方法等							
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4	(1)介護演習	①介護実習の意義・目的	介護実習を行う意味と目的を理解する。	◎	○	◎	ワークシート
5		②実習先の検討・決定	自己の目標と実習先を比較検討し、適切な実習先を選ぶ。	○	◎	○	ワークシート
6		③実習	これまでの学びを統合した実習になるよう事前準備をきちんと行うとともに、実習時には積極的に動き、学びをより深める。	○	◎	◎	実習簿・実習巡回
7		④振り返り	実習の内容を振り返り、改善すべきことを発見し、解決方法を考えるとともに、学びをスライドにまとめる。	◎	◎	○	スライド
9	(2)事例研究	①チームで実習内容を共有し、改善点と方法を検討する	個性に応じた課題を発見し、共有することができる。また、これまでの学びを統合して、解決の方法を考えられる。	○	◎	◎	グループワーク
10		②検討内容をスライドにまとめ、発表する	話し合った内容を分かりやすくまとめることができる。また、聞き手を意識した発表ができる。また、話し手に対して自分の意見を伝えることができる。	◎	○	○	スライド
11	(3)調査、研究、実験	①福祉課題の発見	自分の住んでいる地域を中心に、そこで抱えている福祉課題を見つけられる。	○	○	◎	ワークシート
12		②論文作成	論文形式で調べた内容や考察をまとめることができる。また、適切なフィールドワークを実施しまとめることができる。	◎	◎	○	論文・フィールドワーク
1		③発表	論文の内容をスライドにまとめ、発表できる。	◎	○	○	スライド
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面				
・介護実習で、自ら問を設定しその問を解決するために目標を立て、実習を行う。 ・福祉課題を発見し、解決の方法を論理的に説明する。			社会科と連携して、社会調査の方法とからめて介護現場における科学的な根拠に基づいた介護方法について学ぶ。				
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考査、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。							
科目履修・選択上の留意事項							

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別		
53	福祉	こころとからだの理解	3	福祉	3	必修選択		
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等				
こころとからだの理解(実教出版)								
本科目の学習目標								
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成する。								
評価の観点(規準)とその趣旨								
①知識・技能		自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。						
②思考・判断・表現		自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。						
③主体的に学習に取り組む態度		健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。						
学習計画及評価方法等								
月	領域	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点			評価方法	
				①	②	③		
4	(1)こころとからだの基礎的理解	ア こころの理解	動機付けや欲求といった論理的な知識を理解するとともに、他者の心の動きについて考える。	◎	◎	○	課題・1学期考查	
5		イ からだのしくみの理解	恒常性やバイタルサインと臓器の働きを関連させながら理解し、日常的な健康観察ができる。	◎	○	○		課題・1学期考查
6		(2)生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	ア 身じたくに関するこころとからだのしくみ	生活支援ごとの特徴を理解するとともに、それぞれの支援によってこころとからだにどのような影響があるかを理解する。	◎	◎	○	
7			イ 移動に関するこころとからだのしくみ					
			ウ 食事に関するこころとからだのしくみ					
	エ 入浴・清潔に関するこころとからだのしくみ							
		オ 排泄に関するこころとからだのしくみ						
9	(2)生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	カ 睡眠・休養に関するこころとからだのしくみ	生活支援ごとの特徴を理解するとともに、それぞれの支援によってこころとからだにどのような影響があるかを理解する。	◎	◎	○	2学期考查	
		キ 緊急時・災害時に関するこころとからだのしくみ						
		ク 終末期に関するこころとからだのしくみ						
10	(3)発達と老化の理解	ア 人間の成長と発達	人間の成長と発達の過程における、身体的、心理的、社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を身に付ける。	◎	○	◎	2学期考查	
		イ 老年期の理解と日常生活						
		ウ 高齢者と健康						
11	(4)認知症の理解	ア 認知症の基礎的理解	認知症の原因となる疾患、認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を理解するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基本的な知識や技術を身に付ける。	◎	◎	○	課題・2学期考查	
12		イ 認知症に伴う心身の変化と日常生活						
		ウ 認知症を取り巻く状況						
1	(5)障害の理解	ア 障害の基礎的理解	障害に関する基礎的な考え方や各種障害の種類や特性、障害が日常生活に及ぼす影響などについて理解するとともに、障害者の地域での生活を支えるための基礎的な知識を身に付ける。	◎	◎	○	課題・3学期考查	
		イ 生活機能障害の理解						
		ウ 障害者の生活理解						
自ら課題設定・解決をする場面			教科横断的な活動をする場面					
・○○な利用者の意欲を引き出す方法を考えよう ・認知症の利用者に対して病気の視点からどのような支援が考えられるか			「保健・体育」と連携し、日常的な健康観察の方法を理解させたい。					
評価の方法(定期考查・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等) ・学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む態度等を多面的に評価する。また、定期考查、課題レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。								
科目履修・選択上の留意事項								

通番	教科名	科目名	単位数	対象類型	履修学年	選択・必修の別	
54	キャリアマネジメント	キャリアマネジメント	2	共通	3	必須	
令和7年度 使用教材(教科書)				令和7年度 使用副教材・副読本等			
「探究×SDGs 地域の課題解決のコツ」 発行:朝日新聞社 制作:株式会社トモノカイ							
本科目の学習目標							
高等学校における教科での専門的な学び及び総合的な探究の時間での学びの成果を元に、教科横断的に目標を定め、卒業後の自己実現に結び付ける。							
評価の観点(規準)とその趣旨							
①知識・技能		(1)探究の意義についての理解(2)探究の過程についての理解(3)研究倫理についての理解(4)観察、実験、調査等についての基本的な技能 (5)事象を分析するための基本的な技能(6)探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能					
②思考・判断・表現		(1)課題を設定するための基礎的な力(2)課題解決に向けた手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 (3)探究した結果をまとめ、適切に表現する力					
③主体的に学習に取り組む態度		地域課題の設定や解決への取組、自己課題の設定から解決までの取組					
学習計画及評価方法等							
月	単元(学習項目)	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)	評価の観点			評価方法
				①	②	③	
4 5 6 7 9 10 11 12 1 2	(1)社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成 (2)我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察 (3)自己の将来の生き方や進路についての考察		1 SDGsの事例を参照しながら地域の課題を発見する。 2 SDGsの事例を参照しながら解決策のアイデアを考える。 ・情報を収集する技能の習得(手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能) a 調査活動を通して(例えば、現地の様子などを直接観察するなどして情報を収集したり、現地の行政機関などから聞き取りをするなどして情報を収集したりする技能) b 諸資料を通して(例えば、図書館などにある、地図や統計、写真などの文献資料、実物資料を通して情報を収集したり、情報通信ネットワークなどにあるデジタル化された資料を通して情報を収集したりする技能) c 情報手段の特性や情報の正しさに留意して(例えば、統計の出典、作成者などの事実関係に留意して情報を収集したり、主題図の作成意図、作成過程などの作成背景に留意して情報を収集したりする技能) ・情報を読み取る技能の習得(収集した情報を社会的事象の地理的な見方・考え方に沿って読み取る技能) a 情報全体の傾向性を踏まえて(例えば、位置や分布などの広がりから全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ったり、移動や変化などの動向から全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ったりする技能) b 必要な情報を選んで(例えば、地図から目的に応じた情報を選んで読み取ったり、諸統計から信頼できる情報を選んで読み取ったりする技能) c 複数の情報を見比べたり結び付けたりして(例えば、同一地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取ったり、異なる地域の共通する情報を比較、関連付けて読み取ったりする技能) d 資料の特性に留意して(例えば、地図の図法など資料の用途に留意して情報を読み取ったり、統計の単位、絶対値(相対値)など資料のきまりに留意して情報を読み取ったりする技能) 3 最適な解決策を選択する。地域課題の解決策を発表する。 ・情報をまとめる技能の習得(読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能) a 基礎資料として(例えば、聞き取りの結果などを正確に記録にまとめたり、収集した統計を汎用性のある表に加工してまとめたりする技能) b 分類・整理して(例えば、データをその性格によって分類してまとめたり、データをその利用の可否によって取捨選択してまとめたりする技能) c 情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して(例えば、文書などの情報を地図化、グラフ化して概観できるようまとめたり、地図やグラフなどの情報を文章にして解釈、説明してまとめたりする技能) 4 地域課題の解決策を実行する。 5 探究×SDGsの学びを振り返る。 6 身に付けた知識技能を自己の生涯学習につながるように探究する。 7 1・2年生の探究活動内のアドバイザーとして補助に入ることで、より深い学びを創造させる。	○	○	○	【指導上の留意点】 ① 職業と生活 各種企業や施設等の見学及び就業体験活動やボランティア活動、卒業生や職業人等との対話、発表や討論等を通して、職業の種類や特徴、職業生活などについて理解するとともに、勤労の意義について考察し、職業人として必要とされる能力・態度、望ましい勤労観、職業観を養うための学習を行う。 ② 我が国の産業と社会の変化 先端的な工場や情報関連企業等の見学、技術者や海外勤務者等の講話、調査研究や発表・討論等を通して、我が国の科学技術の発達や産業・経済の発展・変化について理解し、それがもたらした情報化、国際化等の社会の変化、人々の暮らしへの影響について考察するための学習を行う。 ③ 進路と自己実現 発表・討論、自己の学習計画の立案等を通して、自己の能力・適性、興味・関心等と各種職業に求められる資質・能力を踏まえ、自己の将来の生き方や進路について考察する。
自ら課題設定・解決をする場面				教科横断的な活動をする場面			
2年次における探究コース選択により、取組内容が異なる				総合的な探究の時間と同時間に実施し、教科横断的な取組として適宜対応する			
評価の方法(定期考査・授業に対する関心や意欲・課題の種類や作品等の提出・レポート・ノート等の点検の実施等)							
1 数値による評定は行わない。指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に所見を記入する。 2 授業者は観察をしっかりと行い、評価の参考とする。課題の設定から課題解決にどのように取組、生徒が変容したかを読み取る。 3 1・2年次に身に付けた課題解決能力を、卒業後の人生に置き換え、自己実現に結び付けさせる。							
科目履修・選択上の留意事項							